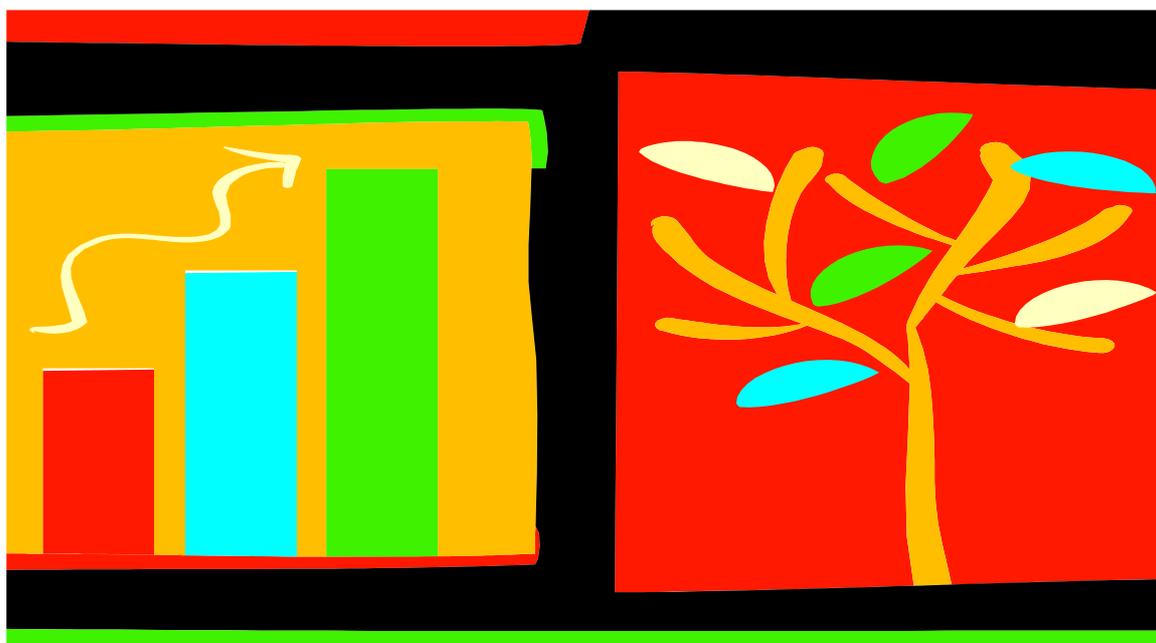


# 新宿区の財政について



平成17年12月

新宿区

- \* 金額は、表示単位未満を四捨五入していますが、端数処理の関係で、合計数値や構成比があわないことがあります。
- \* 原則として、普通会計（地方財政状況調査）の昭和62年度から平成16年度までの決算数値を使用しています。

## はじめに

区財政の現状と課題についてわかりやすくお示するとともに、今後の財政運営についての議論をしていただく資料として、平成13年度より「新宿区財政白書」を発行しています。

区財政は、これまで取り組んできました「区政改革プラン」などの行財政改革の効果により歳出が抑制され、一定の改善が見られる状況となりました。平成12年度から5年連続で実質単年度収支が黒字となったことは、そのことを示しています。

また、こうしたことを背景として、平成15年2月には、更なる改革を不断に行っていくことを前提として、平成7年10月に行った「財政非常事態宣言」を取りやめました。

一方、我が国の経済は、企業収益などの改善傾向から、景気が回復基調にあるとの政府の判断があるものの、景気回復効果の企業部門から家計部門への波及の遅れや原油価格高騰の経済に与える影響が懸念される状況にあります。また、国と地方の税財政改革（三位一体改革）は、所得税から住民税への税源移譲の内容を含む改革の全体像が未だ不透明なままであり、区財政は依然として見通しの悪い変革期の中にあります。

このような区財政を取り巻く環境を的確に捉え、将来に渡り安定した財政運営を持続していくためには、行財政改革に不断に取り組み、行政の体質改善を図るとともに、公共サービスのあり方の見直しを進めていくことが重要です。

この「新宿区の財政について」は、昭和62年度から平成16年度の普通会計決算のデータにより、区財政の推移と現状を中心に説明するとともに、平成16年度のバランスシートと行政コスト計算書を参考資料として作成しました。

今後も区財政の状況について、区民の皆さんにわかりやすく説明していきたいと考えております。

平成17年12月

企画政策部財政課

# - 目 次 -

区財政の推移と現状	1
1 財政規模について	1
(1) 歳出総額と特別区税収入の推移	1
(2) 実質収支と実質単年度収支の状況	2
2 歳入決算の状況	3
(1) 区税収入と歳入総額	3
(2) 特別区交付金	4
(3) 一般財源	5
(4) 特定財源	6
(5) やや増加した基金	8
3 歳出決算の状況	9
(1) 性質別経費の内訳	9
(2) やや減少した人件費	10
(3) 増加する扶助費	11
(4) ピークを過ぎた公債費	12
(5) 圧縮の続く投資的経費	13
(6) その他経費の中身	14
(7) 目的別経費の内訳	15
4 財政指標からわかること	16
(1) 財政の硬直化を示している経常収支比率	16
(2) 経常収支比率を性質別に見てみると	17
(3) 財政を圧迫する公債費の増を示す公債費比率	18
(4) 財政の運営状況を表す実質収支比率	19

## 参 考 資 料

1	平成16年度バランスシート・行政コスト計算書	20
	(1) はじめに	20
	(2) バランスシート	21
	(3) バランスシートの分析	23
	区民一人あたりのバランスシート	24
	資産・負債・正味資産の前年度比較	25
	社会資本形成の世代間負担比率	25
	歳入規模対資産比率	25
	有形固定資産の行政目的別割合	26
	(4) 行政コスト計算書	27
	(5) 行政コスト計算書の分析	29
	総 括	29
	行政コスト対有形固定資産比率、収入項目対行政コスト比率	30
	平成15年度行政目的別行政コスト計算書	31
	平成16年度行政目的別行政コスト計算書	33
2	財政データ集	35
	(1) 普通会計決算の推移	35
	(2) 平成16年度一般会計決算	41
	(3) 基金現在高の推移	43
3	施策の展開	45
	(1) 区政の動き(主な施策・施設等)年表	45
	(2) 施設の充実状況	47
4	用語の解説	48

# 区財政の推移と現状

## 1 財政規模について

### (1) 歳出総額と特別区税収入の推移

新宿区の財政規模（歳出）は、昭和62年度には784億円でしたが、平成元年度には1,000億円を超え、その後平成6年度まで高い水準で推移しています。これは好調な税収を背景として、区民ニーズを踏まえて策定された昭和63年度の基本計画を着実に推進したことによるものです。その後は、景気の後退に伴って、財政規模の圧縮に努めてきました。

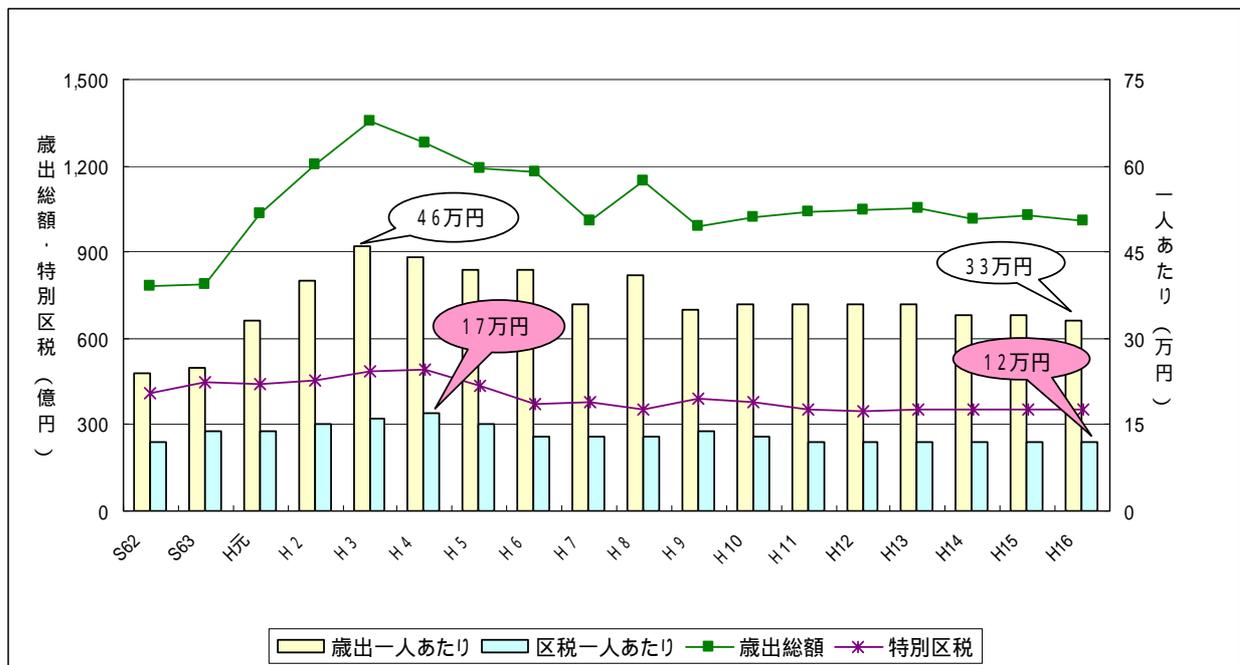
一方、特別区税収入は平成4年度の491億円をピークに減少を続け、平成12年度は344億円で落ち込みました。平成16年度は354億円となり、平成11年度以降、ピーク時の約7割程度で推移しています。

表 1

（単位：億円）

年度	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
歳出総額	784	787	1,031	1,206	1,355	1,277	1,191	1,179	1,006	1,144	989	1,022	1,039	1,047	1,053	1,016	1,028	1,008
特別区税	408	448	443	456	486	491	436	371	377	351	390	381	350	344	356	355	352	354

グラフ 1



\* 歳出及び特別区税の一人あたりの額は、各年度4月1日現在の住民基本台帳人口と外国人登録人口により計算しています。

## (2) 実質収支と実質単年度収支の状況

実質収支は、歳入決算額から歳出決算額と翌年度繰越財源を単純に差し引いたもので、ほとんどの自治体で黒字（プラス）になっています。

それに対し、基金（区の貯金）の中で財源の年度間調整を行うための財政調整基金の積立て・取崩しを全く行わないとして算出したのが実質単年度収支です。

新宿区は平成2年度以降11年度までは、7年度を除いて、実質単年度収支の赤字（マイナス）が続いていました。しかし、行財政改革の効果等により、平成12年度から16年度まで5年連続の黒字となりました。

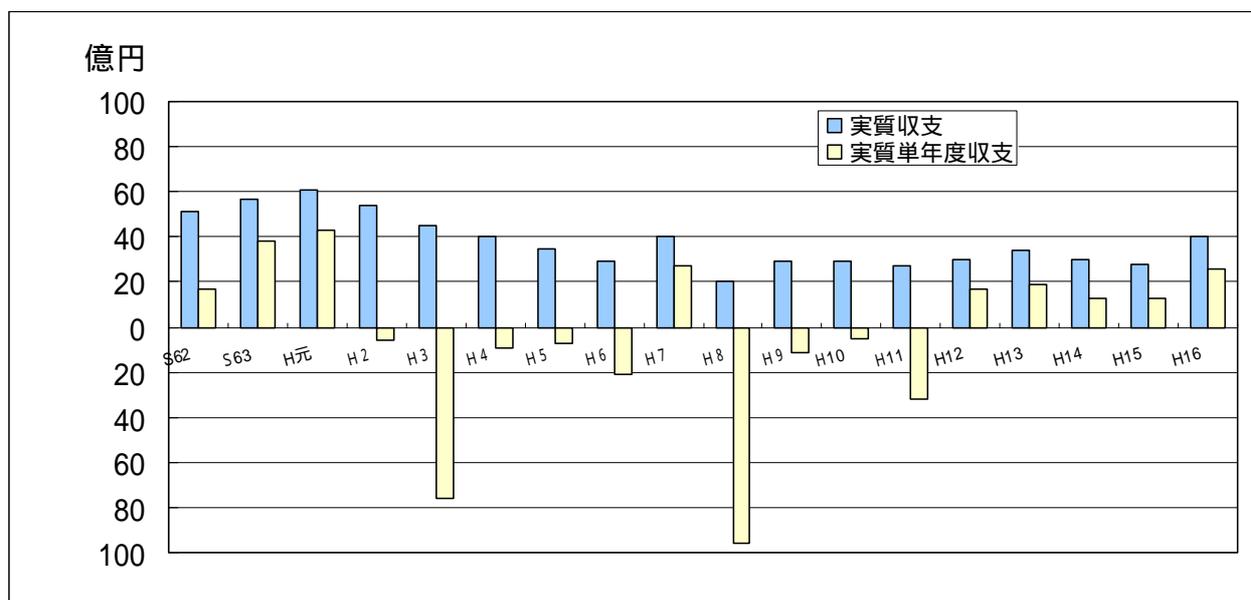
施設更新等の将来需要などに的確に対応し、効果的で効率的な区政運営を実現するためには、引き続き行財政改革に取り組んでいくことが必要です。

表 2

(単位：億円)

年度 区分	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
実質収支	51	57	61	54	45	40	35	29	40	20	29	29	27	30	34	30	28	40
実質単年度収支	17	38	43	6	76	9	7	21	27	96	11	5	32	17	19	13	13	26

グラフ 2



行革効果によって、5年連続で黒字にできました。

## 2 歳入決算の状況

### (1) 区税収入と歳入総額

区で行う住民に身近なサービスに必要な費用は、多くが特別区税によりまかなわれています。しかし、長期にわたる景気の低迷と減税の影響を受け、特別区民税が落ち込むとともに、近年は喫煙人口の減少により特別区たばこ税も減少しています。平成16年度決算では、最も収入の多かった平成4年度の491億円と比べ、137億円も減少しています。また、歳入総額に占める特別区税の割合は昭和63年度には約半分(49.9%)を占めていましたが、平成16年度は33.6ポイントで、3分の1程度となっています。

平成16年度は、歳入総額が前年度に比べ4億円減少しましたが、特別区税が2億円増加したため、特別区税の割合(B/A)は0.3ポイント増となっています。

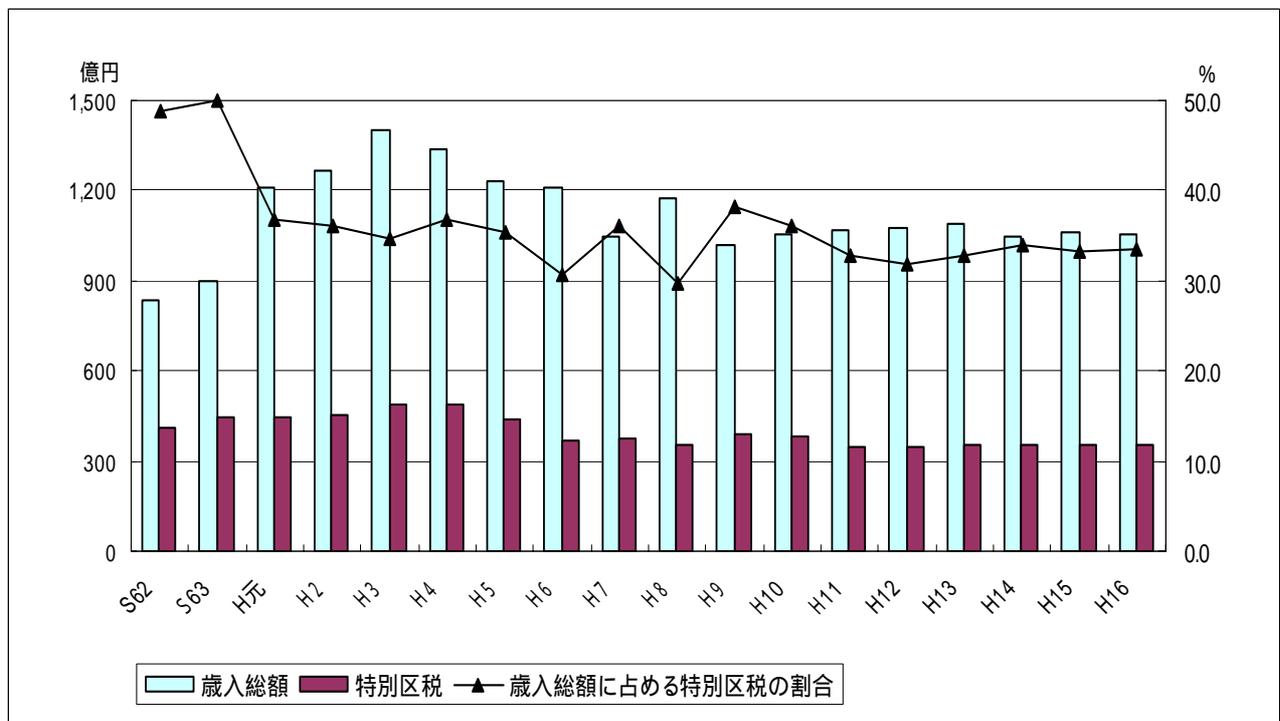
表 3

(単位：億円，%)

年度 区分	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
歳入総額 A	836	897	1,207	1,267	1,404	1,337	1,233	1,209	1,048	1,177	1,018	1,056	1,066	1,078	1,088	1,046	1,058	1,054
特別区税 B	408	448	443	456	486	491	436	371	377	351	390	381	350	344	356	355	352	354
特別区たばこ税	55	58	51	57	55	54	54	51	50	46	54	59	57	55	57	55	53	51
B/A	48.8	49.9	36.7	36.0	34.6	36.7	35.4	30.7	36.0	29.8	38.3	36.1	32.8	31.9	32.7	33.9	33.3	33.6

B/Aは歳入総額に占める特別区税の割合

グラフ 3



## (2) 特別区交付金

23区と東京都は、市町村民税法人分・固定資産税・特別土地保有税の3税を財源として、事務の分担に応じた財政調整を行っています。この財政調整によって区に交付される特別区交付金は、特別区税とともに区の主要な財源となっています。

特別区交付金は、特別区税と同様に伸びを続け、平成2年度には268億円にまで達しました。しかし、翌年度以降減少に転じ、平成4年度に大きく落ち込んだ後も低迷を続けています。平成12年度には、前年度比66億円、39%の増となっていますが、これは平成12年4月に実現した都区制度改革により、清掃事業等が区に移管されたことに伴うもので、23区への財源配分は、それまでの44%から52%になりました。しかし、この配分割合は必ずしも満足のいくものではなく特別区の財政自主権が強化されるよう東京都と協議しています。また、新宿区の交付額は23区合計の2.5～4.0%と低く、改善に向けて努力していきます。

平成16年度は、上記3税の増収等により2年ぶりに増収(対前年度比8億円の増)となっています。

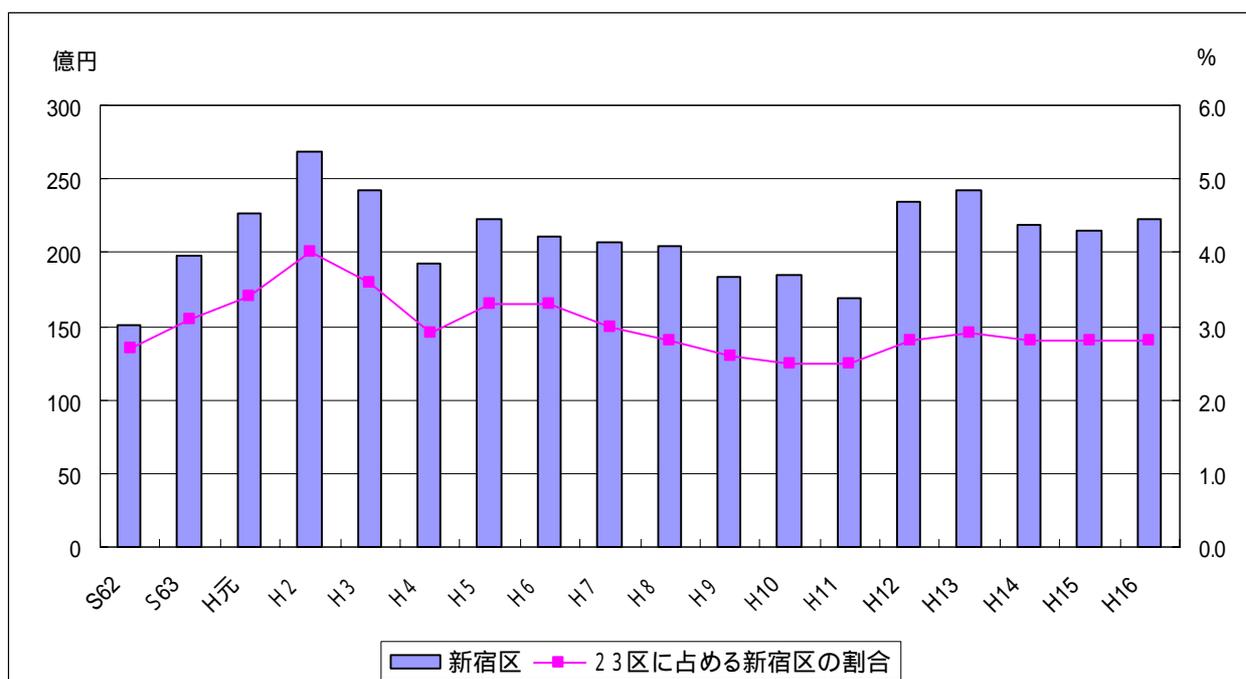
表4

(単位：億円，%)

年度 区分	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
新宿区 A	151	198	227	268	243	192	223	211	207	204	183	185	169	235	243	219	215	223
23区合計 B	5,670	6,311	6,692	6,636	6,752	6,685	6,702	6,318	6,980	7,306	7,102	7,400	6,790	8,309	8,305	7,693	7,756	8,081
A / B	2.7	3.1	3.4	4.0	3.6	2.9	3.3	3.3	3.0	2.8	2.6	2.5	2.5	2.8	2.9	2.8	2.8	2.8

A / B は 23 区に占める新宿区の割合

グラフ4



### (3) 一般財源

一般財源とは、用途が制約されずにどのような経費にも使用できる財源のことで、特別区税、特別区交付金、地方消費税交付金などのことをいい、一般財源の割合が大きいくほど自主的な財政運営を行うことができます。

一般財源の収入は個人所得・法人所得あるいは消費動向等によって左右されます。そのため、いわゆるバブル経済の崩壊によって、平成3年度には減収に転じ、6年度には750億円台に落ち込み、長引く景気の低迷や減税措置への対応としての減税補てん債等の財源措置を続けています。

平成16年度は、地方消費税交付金や特別区交付金などの増により前年度と比べ28億円増となっていますが、平成2年度と比較してみると243億円も減少しています。

表 5

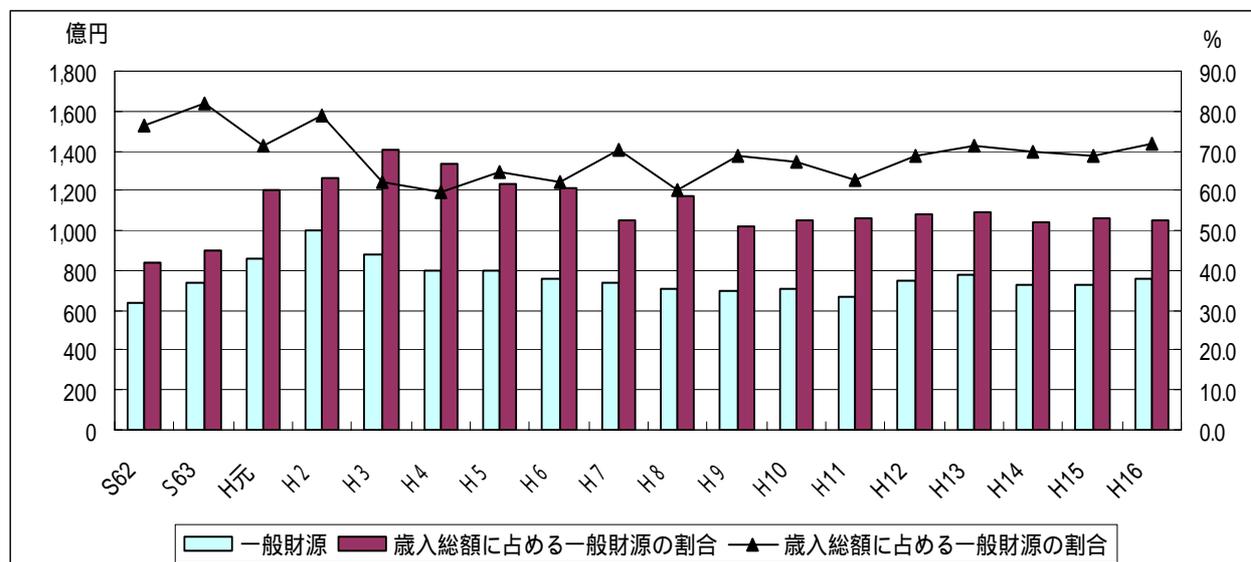
(単位：億円，%)

区分 \ 年度	S62	S63	H元	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
特別区税	408	448	443	456	486	491	436	371	377	351	390	381	350	344	356	355	352	354
地方譲与税	4	4	31	35	36	41	45	45	46	46	20	6	6	6	6	6	6	11
利子割交付金	0	21	36	52	38	17	24	27	27	13	11	10	9	22	22	9	7	6
配当割交付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
株式等譲渡所得割交付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
地方消費税交付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	72	67	69	75	66	76	86
地方特例交付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	24	25	25	26	27
特別区交付金	151	198	227	268	243	192	223	211	207	204	183	185	169	235	243	219	215	223
繰越金	63	52	111	177	61	50	60	42	30	42	33	29	33	27	31	34	30	30
減税補てん債等	0	0	0	0	0	0	0	49	38	44	35	19	9	10	10	10	10	10
その他	10	12	12	13	12	10	9	9	10	10	9	8	7	7	8	7	8	8
一般財源計 A	636	735	860	1,001	876	801	797	754	735	710	698	710	671	744	775	731	730	758
歳入総額 B	836	897	1,207	1,267	1,404	1,337	1,233	1,209	1,048	1,177	1,018	1,056	1,066	1,078	1,088	1,046	1,058	1,054
A / B	76.1	81.9	71.3	79.0	62.4	59.9	64.6	62.4	70.1	60.3	68.6	67.2	62.9	69.0	71.2	69.9	69.0	71.9

\* 普通会計決算では一般財源に含めませんが、ここでは繰越金・減税補てん債等を含めています。

なお、年度間の財源調整である、財政調整基金繰入金は除いています。

グラフ 5



#### (4) 特定財源

特定財源とは、用途が特定されている財源のことで、分担金及び負担金、使用料及び手数料、国・都支出金、繰入金、地方債（減税補てん債等を除く）などがあります。いずれも、歳出の目的にあわせて区民の皆さんから料金をいただいたり、国や東京都から補助金を受けたりするわけですが、受益者負担の適正化が不十分な場合や事業に対する補助金の算定規準が低いことなどにより区財政を圧迫している部分があります。

また、国の三位一体改革等の補助・負担金の見直しによる国や都の支出金の変動には、今後とも十分留意していくことが必要です。

平成16年度は、生活保護費の増により国庫支出金が増となりましたが、基金からの繰入を行わなかったことにより、前年度に比べ32億円の増となっています。

表 6

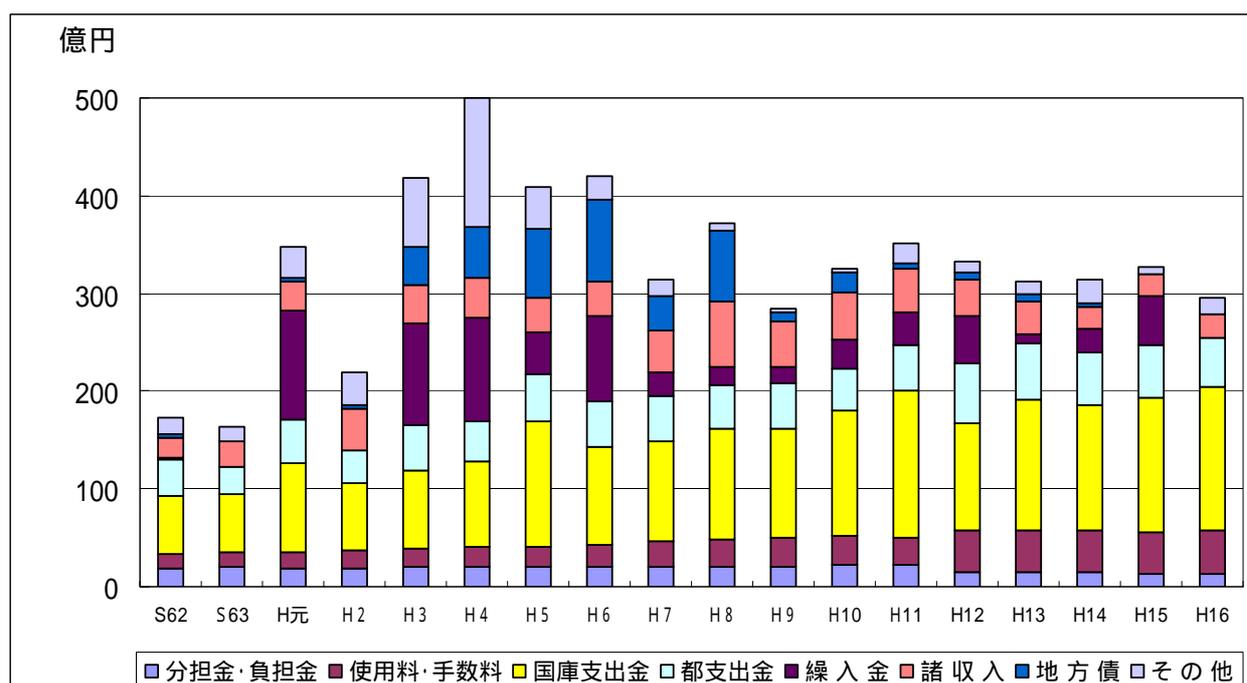
(単位：億円)

区分 \ 年度	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
分担金・負担金	18	20	19	19	20	20	20	20	21	21	21	22	22	15	15	14	13	13
使用料・手数料	16	16	17	18	19	20	21	22	25	28	29	30	28	42	43	43	43	44
国庫支出金	59	58	90	69	80	88	128	102	103	112	111	128	150	111	134	128	138	147
都支出金	38	28	45	33	47	41	49	46	46	46	47	43	48	60	58	54	54	50
繰入金	1	1	112	1	104	106	43	87	24	18	16	30	32	49	8	25	50	0
諸収入	21	25	29	43	39	41	35	36	43	66	48	48	45	38	33	23	22	25
地方債	3	1	4	3	39	52	71	83	36	74	8	20	6	7	9	3	0	0
その他	17	14	31	34	71	132	41	24	17	6	4	5	21	10	13	25	8	17
特定財源計	173	163	347	220	419	500	408	420	315	371	284	326	352	332	313	315	328	296

\* 普通会計決算では特定財源に含みますが、ここでは繰越金・減税補てん債等を除いています。

また、繰入金のうち年度間の財源調整である、財政調整基金繰入金は除いています。

グラフ 6



この資料は、平成16年度決算額により数値を改訂しています。

### 受益者負担の適正化について

サービス内容と受益者負担とのバランスとともに、そのサービスを受けない人との公平性を確保するためにも、その負担は適正であることが必要です。

区民健康村、総合体育館1・2号館、放置自転車対策（撤去及び啓発活動）を例にあげると、16年度の決算額は次のようであり、税金により支えていることがわかります。

（単位：千円）

		区民健康村	総合体育館	放置自転車対策
歳出決算額	a	376,893	710,450	126,327
うち職員人件費		3,260		42,008
使用料または手数料	b	126,990	188,064	40,342
その他の収入	c	936	3,870	35,738
利用者数	d	延 24,654 人	延 405,642 件	16,203 台
1人(1件)あたりコスト	a/d	15	2	8
受益者負担割合	b/a	33.7%	26.5%	31.9%
税金の投入額	a-b-c	248,967	518,516	50,247

### 超過負担について

国庫支出金の算定にあたっては、国は地方公共団体が当該事務を行うために、必要かつ十分な金額を基礎としなければならないこととされていますが、現実には国庫補助基本額が実際に必要な金額より低いことなどがあります。このため、区は法令に定められた負担割合以上に経費を支出しなければならないことがあります。

主な超過負担は、次のとおりです。

（単位：千円）

	平成14年度	平成15年度	平成16年度
成人健康診査	150,626	201,914	197,809
居宅生活支援費等		59,018	83,571
基礎年金事務	108,499	76,023	73,131

支援費制度は、平成15年度から新たに開始された制度です。

( 5 ) やや増加した基金

区は、年度間の財源調整を図るための財政調整基金や特定の事業に充てるための特定目的基金など、17の基金を設置しています。これらの基金の残高は区税収入の好調な時期に積極的に積立てを行ったことから、平成2年度末では634億円にも達していました。

しかし、その後の多額の取崩しにより、12年度末では234億円と2年度末の約37%にまで減少し、具体的に使いみちが予定されている特定目的基金を除き、財源調整として使える財政調整基金は平成12年度末でわずか63億円しかありませんでした。

区財政は、行革等の効果が現れ、12年度以降一定の改善が見られる状況になったことにより、5年連続で財政調整基金の取崩しは行いませんでした。このため、平成16年度末の財政調整基金残高は124億円で、前年度と比べ14億円の増、また基金全体の残高は40億円増の361億円となりました。

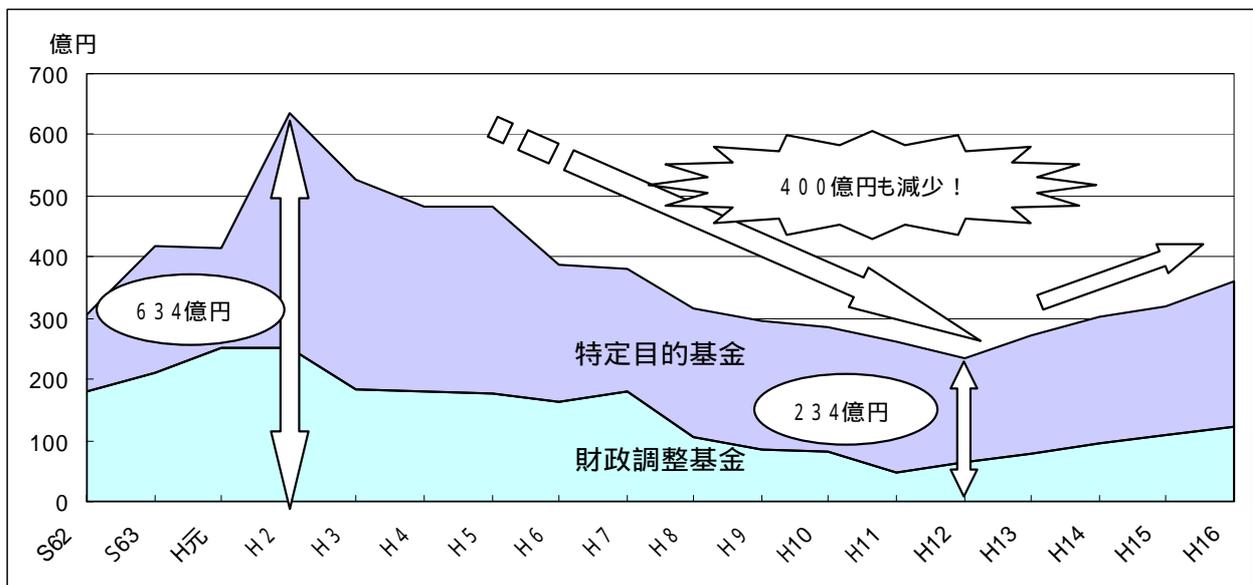
表 7

( 単位:億円 )

年度	S62	S63	H元	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
積立金	32	32	40	49	43	32	25	21	16	21	16	15	14	14	15	17	15	14
取崩し額	28	0	0	48	110	36	28	35	0	97	36	19	45	0	0	0	0	0
財政調整基金	179	211	251	252	185	181	178	164	180	104	84	80	49	63	78	95	110	124
積立金	92	81	67	220	64	65	45	5	2	27	13	24	39	23	38	38	55	30
取崩し額	0	0	112	0	103	106	43	87	24	15	15	30	32	63	14	26	51	4
特定目的基金	126	207	162	382	343	302	304	222	200	212	210	204	211	171	195	207	211	237
基金残高	305	418	413	634	528	483	482	386	380	316	294	284	260	234	273	302	321	361

\* 普通会計決算では含みませんが、ここでは介護保険円滑導入基金、介護給付費準備基金を含めています。

グラフ 7



### 3 歳出決算の状況

#### (1) 性質別経費の内訳

義務的経費とは、その支出が義務づけられ任意に削減できない経費で、職員の給与等の人件費、生活保護等の扶助費及び特別区債の元利償還等の公債費が含まれます。

投資的経費とは、道路、学校、各種公共施設の用地の取得や建設事業など社会資本の整備に要する経費です。

その他経費は、これら以外のもので、物件費(物品購入費、賃借料、委託料等)・維持補修費・補助費等・積立金・投資及び出資金・貸付金・繰出金が含まれます。

歳出総額に占める義務的経費の割合が高いと、財政構造は弾力性が乏しくなり、区が自主的な事業を行うことが難しくなります。義務的経費の歳出総額に占める割合は、大きな事業のあった年度には相対的に下がります。

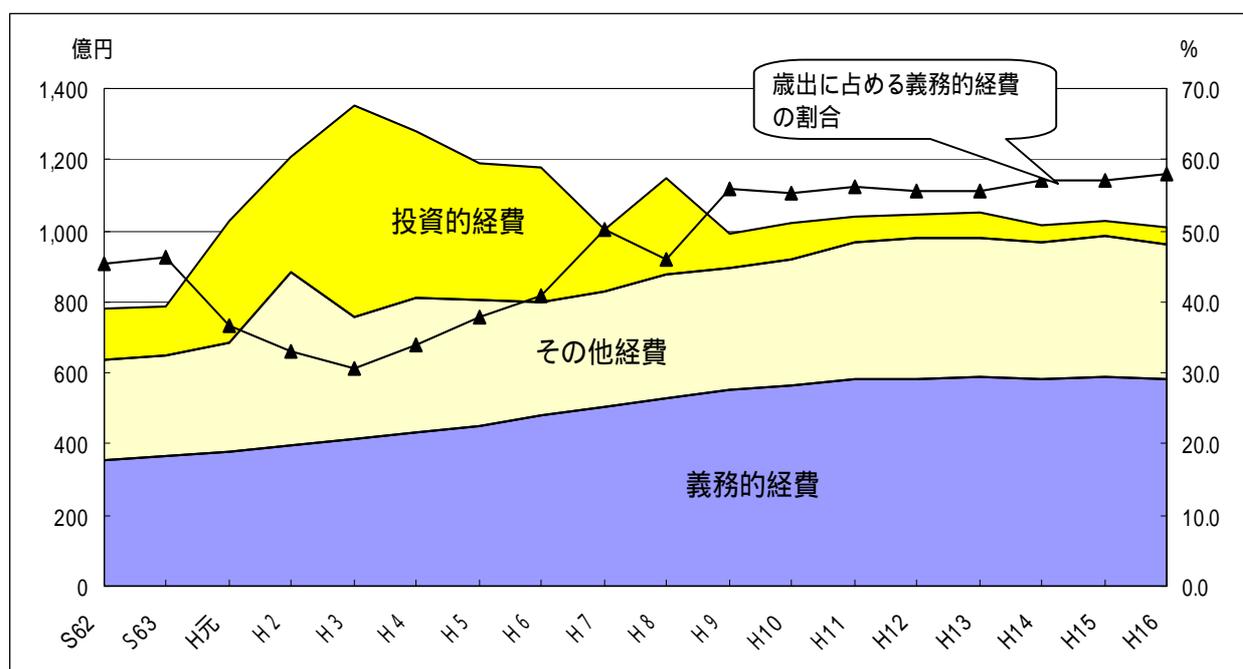
平成16年度では、投資的経費が4.5%と低く、一方義務的経費は58.0%と高い割合となっています。

表 8

(単位：億円，%)

年度	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
義務的経費 A	355	364	378	396	415	432	451	483	504	526	554	564	585	581	586	581	586	585
投資的経費	146	141	347	323	599	467	387	378	176	266	95	99	69	67	77	49	44	45
その他経費	283	282	305	486	340	378	354	317	326	353	340	358	385	399	391	385	399	378
歳出合計 B	784	787	1,030	1,205	1,354	1,277	1,192	1,178	1,006	1,145	989	1,021	1,039	1,047	1,053	1,016	1,028	1,008
A / B	45.3	46.3	36.7	32.9	30.6	33.8	37.8	41.0	50.1	45.9	56.0	55.2	56.3	55.5	55.6	57.2	57.0	58.0

グラフ 8



## (2) やや減少した人件費

人件費のうち職員給は、7年度頃から人員削減の効果などにより横ばいで推移しています。これは、「区政改革プラン」などにに基づき職員定数を削減したことによるもので、11年度にはピーク時の2年度に比べ234人減員となっています。しかし、職員の平均給料が年々増加していることや退職者の増などから人件費の大幅な圧縮にはなっていません。

なお、平成12年度は清掃事業の都からの移管などにより、職員数が増えています。

平成16年度の人件費は292億円で前年度と比べ6億円の減となりました。

また、職員数については、「行財政改革計画」などによる職員数減の結果として、2,784人で93人の減となりました。

表 9

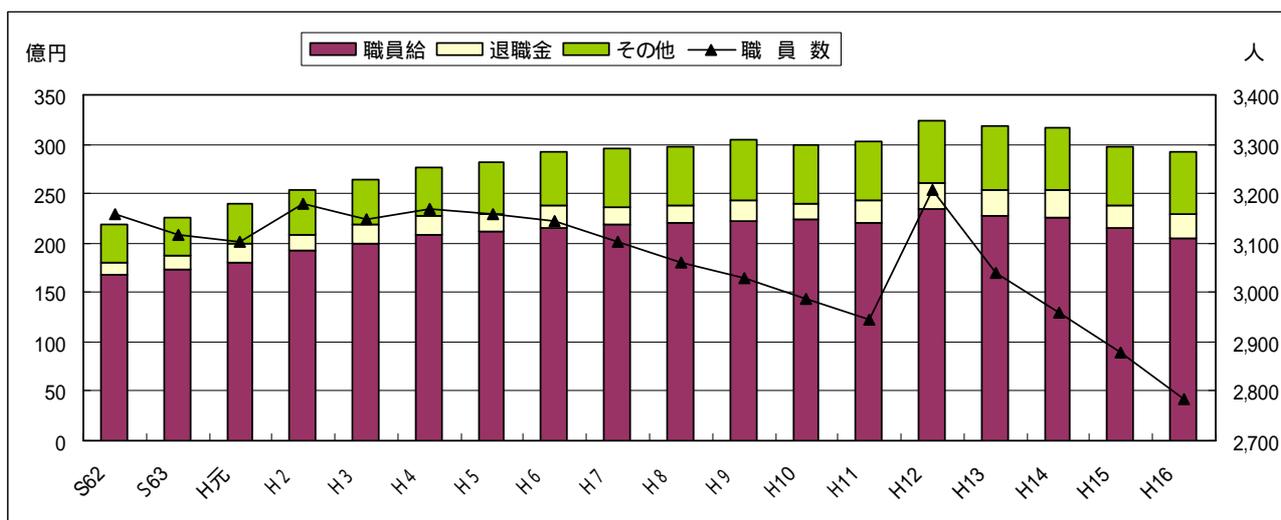
(単位：億円，人)

年度	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
人 件 費	218	225	240	254	264	276	282	292	295	297	304	299	303	324	318	316	298	292
職員給	168	173	180	192	200	208	212	215	219	221	223	224	221	235	228	225	215	205
退職金	13	15	19	17	18	19	18	23	18	17	21	16	22	26	26	28	23	24
その他	37	37	41	45	46	49	52	54	58	59	60	59	60	63	64	63	60	63
職 員 数	3,158	3,116	3,104	3,178	3,147	3,168	3,160	3,144	3,103	3,062	3,028	2,987	2,944	3,207	3,038	2,959	2,877	2,784
職員一人あたり人口	104	104	102	97	96	93	92	91	91	92	93	94	96	89	95	99	102	108
特別区職員数	78,997	78,781	79,059	79,259	78,862	78,818	78,729	78,512	77,992	77,240	76,157	74,996	74,073	79,268	76,072	73,719	71,492	69,199
特別区職員一人あたり人口	106	105	105	104	104	104	104	103	103	104	106	108	110	103	108	113	116	122

\* その他は議員報酬、委員報酬等

\* 職員数は各年度4月1日現在の普通会計の一般職員数

## グラフ 9



職員一人あたりの人口は？

	62年度	2年度	5年度	8年度	11年度	14年度	16年度
新宿区	104人	97人	92人	92人	96人	99人	108人
23区平均	106人	104人	104人	104人	110人	113人	122人

この表のとおり、23区平均と比べると、職員数が多いことがわかります。

### ( 3 ) 増加する扶助費

扶助費は、社会保障制度の一環として支出される経費で、生活保護法、身体障害者福祉法、老人福祉法などの法律によるものや、区独自の施策として制度を設けて実施しているものがあります。

扶助費は景気の低迷などによる生活保護者の増加や高齢化の進展による在宅介護支援施策の拡大・拡充などにより年々増加し、平成 1 1 年度決算では、約 2 2 7 億円となっています。平成 1 2 年度は介護保険制度の実施により、従来は高齢者福祉費の扶助費として支出していた経費が介護保険特別会計への繰出金となっていますので、経費の構成が大きく変わっています。

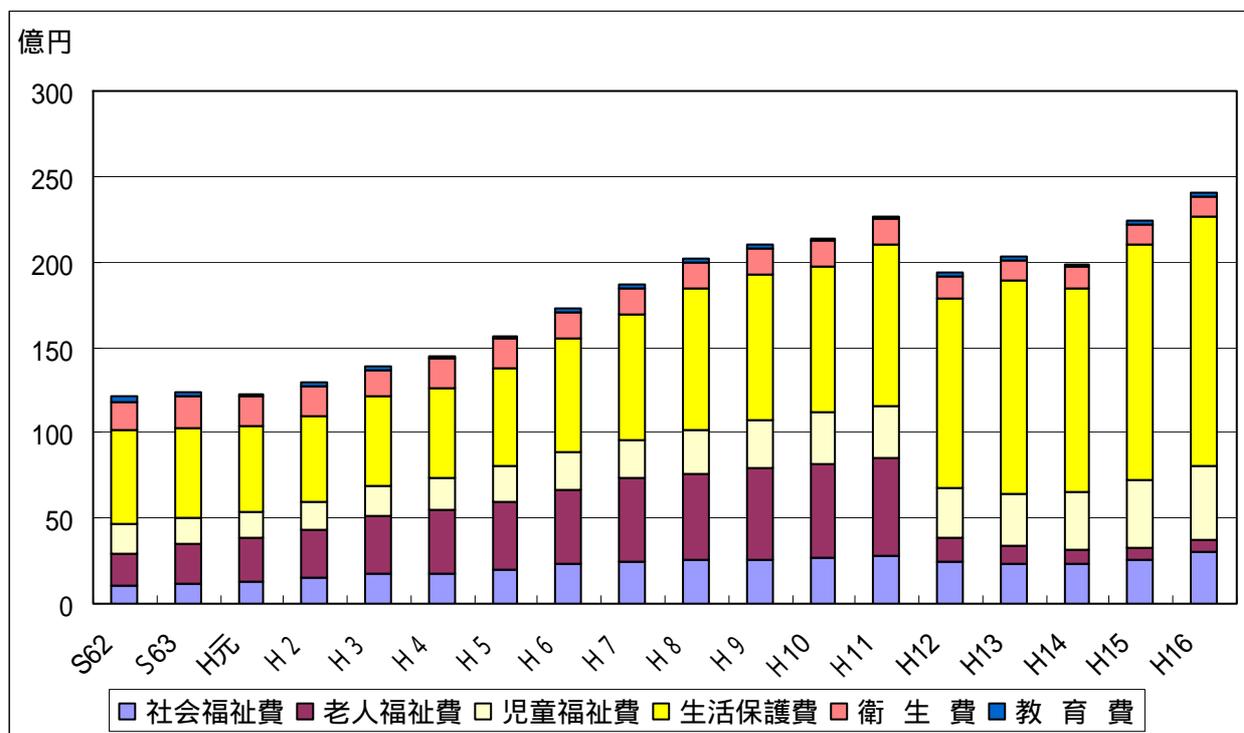
平成 1 6 年度の扶助費は前年度と比べ生活保護費の 9 億円の増等により、全体では 1 6 億円の増となりました。

表 1 0

( 単位 : 億円 )

年度 区分	S62	S63	H元	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
扶 助 費	121	124	123	129	139	145	156	173	187	202	210	214	227	194	203	199	224	240
社会福祉費	10	12	13	15	17	18	20	23	25	26	26	27	28	24	23	23	26	30
老人福祉費	19	23	25	28	34	37	40	44	48	50	53	55	57	14	11	9	7	7
児童福祉費	18	15	16	17	18	18	20	22	23	26	28	30	30	30	30	33	39	43
生活保護費	54	53	50	50	52	53	58	66	73	82	86	85	95	111	125	120	138	147
衛生費	17	18	17	17	16	17	17	16	16	16	15	15	15	13	12	12	12	11
教育費	3	3	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

グラフ 1 0



#### (4) ピークを過ぎた公債費

公債費とは、区が学校の建設や道路を整備するなどの社会資本の整備に充てるために借り入れた区債（借入金）を返済する費用のことです。

区債を適切に活用することで、各種の社会資本を円滑に整備することができ、区民生活の向上を図ることができますが、借入金である以上は、必ず決まった金額を毎年返済しなければなりません。

また、平成6年度からの度重なる減税の影響により税収は大幅に減収となっています。これを補うために減税補てん債等を発行することで、財源の確保に努めてきました。

区債現在高は平成10年度には554億円にまで膨らみましたが、平成16年度には366億円となるなど、6年連続で前年度末残高を下回りました。また、これを返済するための費用である公債費も、前年度に比べると10億円の減となりました。今後とも、公債費の増減に留意しつつ、区債を適切に活用した財政運営に努めます。

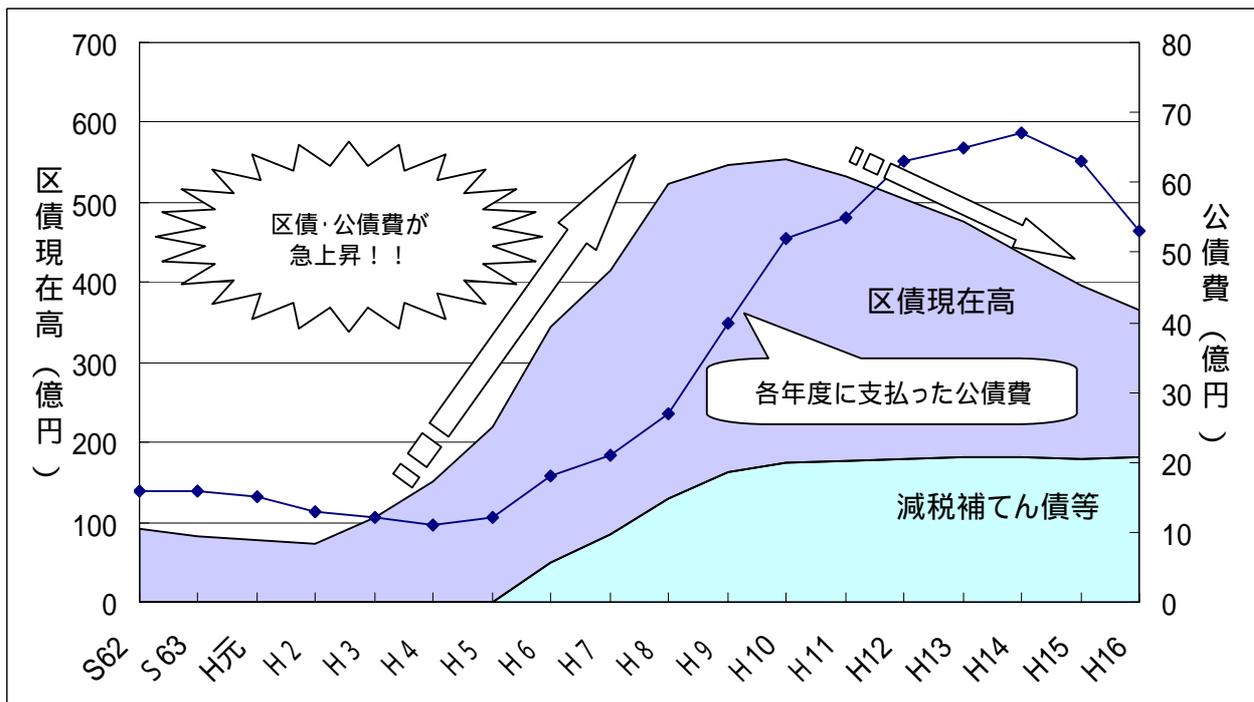
表 1 1

(単位：億円)

年度	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
公債費	16	16	15	13	12	11	12	18	21	27	40	52	55	63	65	67	63	53
区債現在高	91	83	78	73	105	152	219	344	414	523	546	554	532	505	475	437	397	366
うち減税補てん債等	0	0	0	0	0	0	0	49	86	130	163	175	177	180	181	181	180	181

\* 普通会計では含みませんが、ここでは介護保険事業施設分を含めています。

グラフ 1 1



### ( 5 ) 圧縮の続く投資的経費

投資的経費は、平成元年度以降、大規模施設の建設が続いたことなどにより急増し、3年度には600億円に達しましたが、その後は歳入の減少にあわせて大きく圧縮されています。9年度以降は大規模施設の建設も終了し、必要最小限の整備に努めることなどにより、昭和62年度水準を下回る100億円以下で推移しています。平成16年度は45億円、3年度の7.5%となっています。

しかし、今後は学校、その他の公共施設の改築、耐震対策等が見込まれており、そのためには多額の経費が必要となります。施策に優先順位をつけて、財政運営のバランスを考えていかなければなりません。

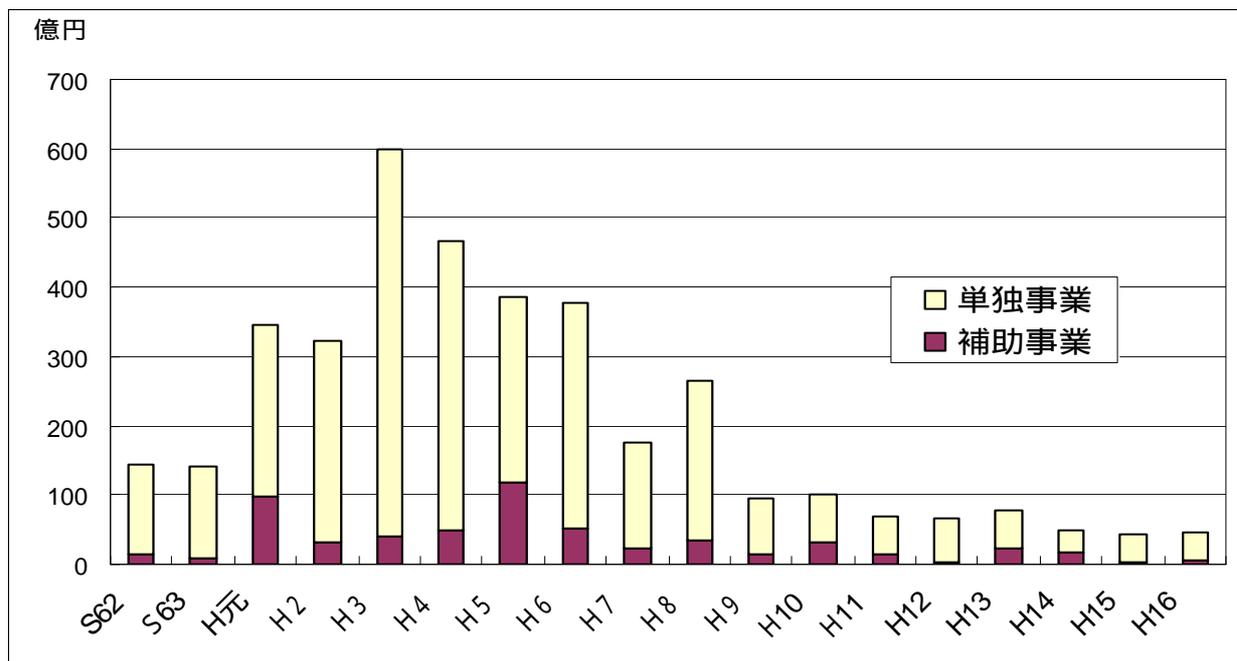
表 1 2

( 単位 : 億円 )

年度 区分	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
投資的経費	145	140	347	323	600	466	387	378	176	266	95	100	69	67	77	49	44	45
補助事業	14	9	98	31	39	48	117	52	24	36	14	32	14	4	22	18	3	7
単独事業	131	131	249	292	561	418	270	326	152	230	81	68	55	63	55	31	41	38

\* 補助事業とは、国庫から補助を得て施行するものをいいます。

グラフ 1 2



将来の改築需要、耐震対策、施策の優先度、すべてに配慮しなくては！！

( 6 ) その他経費の中身

その他経費の推移を下のグラフに示します。

積立金は平成2年度の268億円をピークとして、景気が好調だった平成3年度までは100億円を超えています。この頃に積み立てた基金がその後の景気の後退期における区財政を支えています。

物件費には委託料や役務費などが含まれています。大規模な施設の建設は、後年度負担として施設管理経費を必要とします。平成7年度まで右肩上がりが増え続けてきましたが、全庁的な経費の見直しに取り組むことなどで、抑制努力をしています。しかし、投資的経費と同様に施設の老朽化等による維持補修費の増加は、今後避けられない負担となって出てきます。

特別会計への繰出金が平成12年度は30億円も増加しています。これは、介護保険制度が導入されたことによるもので、従来扶助費などの経費としてとらえられていたものです。

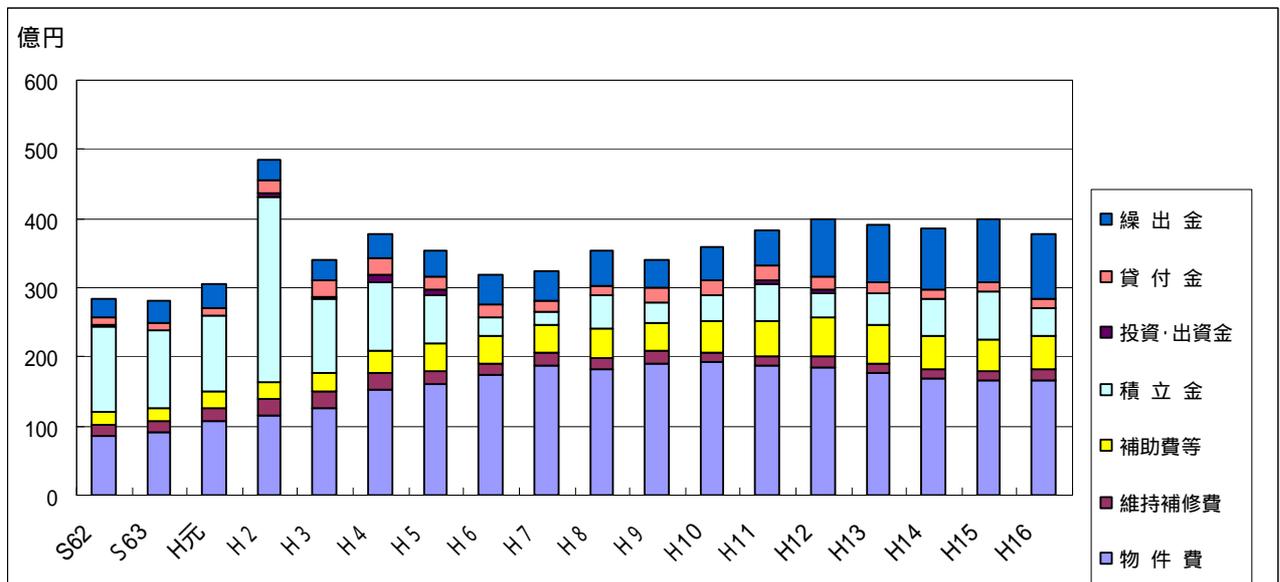
平成16年度は、前年度に比べて、補助費等で財団等派遣職員人件費の人件費から補助費等への振替などにより2億円の増、繰出金で3億円の増となりましたが、社会資本等整備基金積立金の減などにより積立金が28億円の減となっています。

表 1 3

( 単位 : 億円 )

年度 区分	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
その他経費計	283	281	305	485	341	378	353	318	325	353	341	358	384	399	391	386	399	378
物件費	87	90	107	116	127	154	161	173	187	182	190	192	187	186	176	169	166	166
維持補修費	16	16	19	23	24	22	18	17	18	16	18	14	14	15	15	13	13	15
補助費等	18	19	25	24	27	33	40	41	42	43	42	45	51	56	56	49	47	49
積立金	124	113	108	268	107	98	70	26	17	47	29	39	53	34	45	54	69	41
投資・出資金	2	0	0	5	2	12	8	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0
貸付金	11	10	12	20	25	25	19	19	18	15	21	22	22	21	15	12	13	13
繰出金	25	33	34	29	29	34	37	42	43	50	41	46	52	82	84	89	91	94

グラフ 1 3



### ( 7 ) 目的別経費の内訳

目的別経費とは、経費を行政目的に応じて区分するもので、例えば民生（福祉）関係や教育関係にどのように経費が投入されたかを見ることができるものです。

（普通会計と区一般会計では区分が多少異なります。）

この内訳を構成比で見てください。

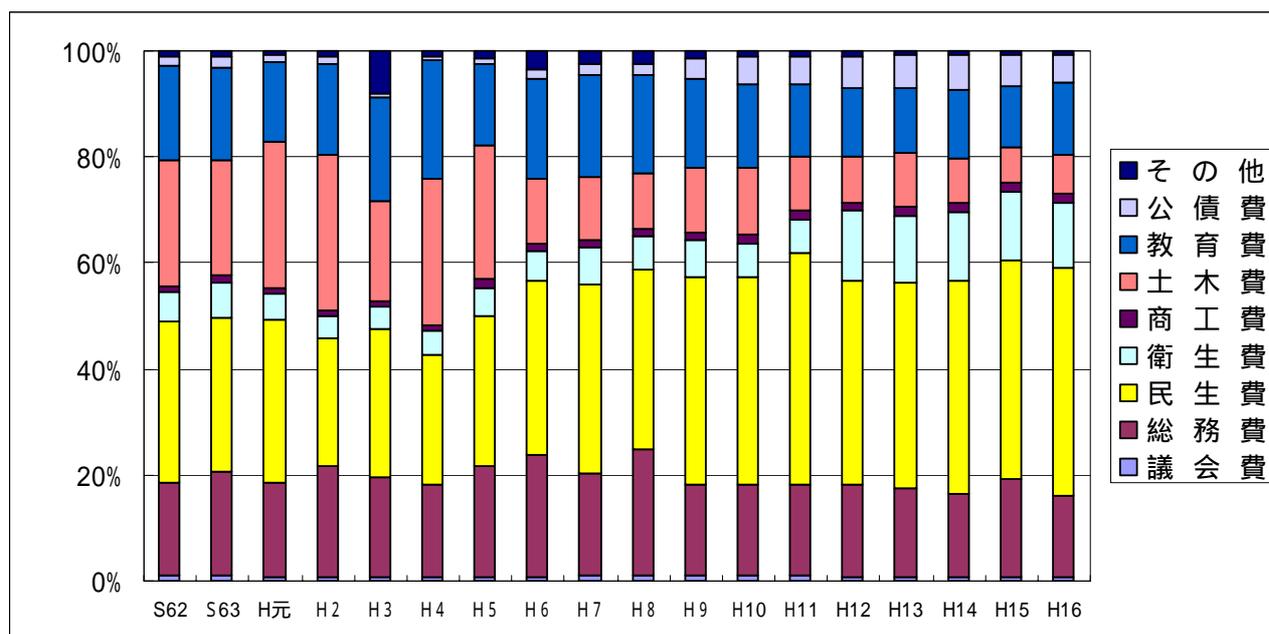
昭和62年度と平成16年度とを比較してみると、民生費は高齢社会への対応や生活保護費の増などにより、12.9ポイント増加し、決算額の43.0%を占めるに至っています。また、公債費は施設建設時に起債の積極的な活用を行ったことや、減税補てん債等の影響により、約3倍の5.3%となっています。一方、土木費は歳入の減少に合わせて大きく圧縮されてきた結果、16.3ポイント減少し、わずか7.2%にとどまっています。なお、衛生費は清掃事業が移管されたため、12年度が11年度に比べ6.7ポイント増加しています。

表 1 4

( 単位 : % )

年度 区分	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
議会費	1.0	1.0	0.8	0.7	0.6	0.7	0.8	0.8	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7
総務費	17.7	19.7	17.9	21.1	19.0	17.5	20.9	22.9	19.3	23.9	17.4	17.2	17.4	17.3	16.8	15.5	18.6	15.3
民生費	30.1	29.1	30.6	23.9	28.1	24.5	28.2	32.8	35.8	33.9	39.2	39.1	43.6	38.6	38.6	40.2	41.1	43.0
衛生費	5.6	6.4	4.8	4.3	4.2	4.6	5.4	5.7	6.8	6.4	6.9	6.6	6.4	13.1	12.8	13.1	13.0	12.5
商工費	1.3	1.5	1.1	0.9	0.9	1.1	1.6	1.4	1.6	1.3	1.5	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.7	1.7
土木費	23.5	21.8	27.7	29.6	19.0	27.6	25.2	12.1	11.7	10.5	12.1	12.3	10.0	8.5	10.1	8.5	6.7	7.2
教育費	17.9	17.5	14.9	17.2	19.3	22.2	15.3	19.2	19.4	18.4	16.6	16.0	13.7	13.2	12.4	13.0	11.5	13.5
公債費	2.0	2.0	1.4	1.1	0.9	0.9	1.1	1.5	2.1	2.4	4.1	5.1	5.3	6.0	6.1	6.6	6.1	5.3
その他	0.9	1.0	0.8	1.2	8.0	0.9	1.5	3.6	2.4	2.3	1.3	1.1	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6	0.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

グラフ 1 4



## 4 財政指標からわかること

### (1) 財政の硬直化を示している経常収支比率

財政状況を見る指標として経常収支比率があります。これは、区税や特別区交付金など毎年入ってくる経常的な収入のうちその用途が限定されずに使える経常一般財源で、人件費・扶助費・公債費・物件費など毎年決まって出ていく経常経費に充当した一般財源を割返した数値のことをいいます。

経常収支比率が90%の場合、結果としてその年度に自由に使える財源は10%となり、その財源が新規事業や普通建設事業に充てることのできる上限額ということになります。従って、経常収支比率が低ければ財政構造は弾力性があり、それだけ様々な事業を行えるということになります。

平成16年度の経常収支比率は、前年度に比べ1.6ポイント改善し、81.3%となっています。

経常収支比率の適正水準は一般に70～80%と考えられています。

表15

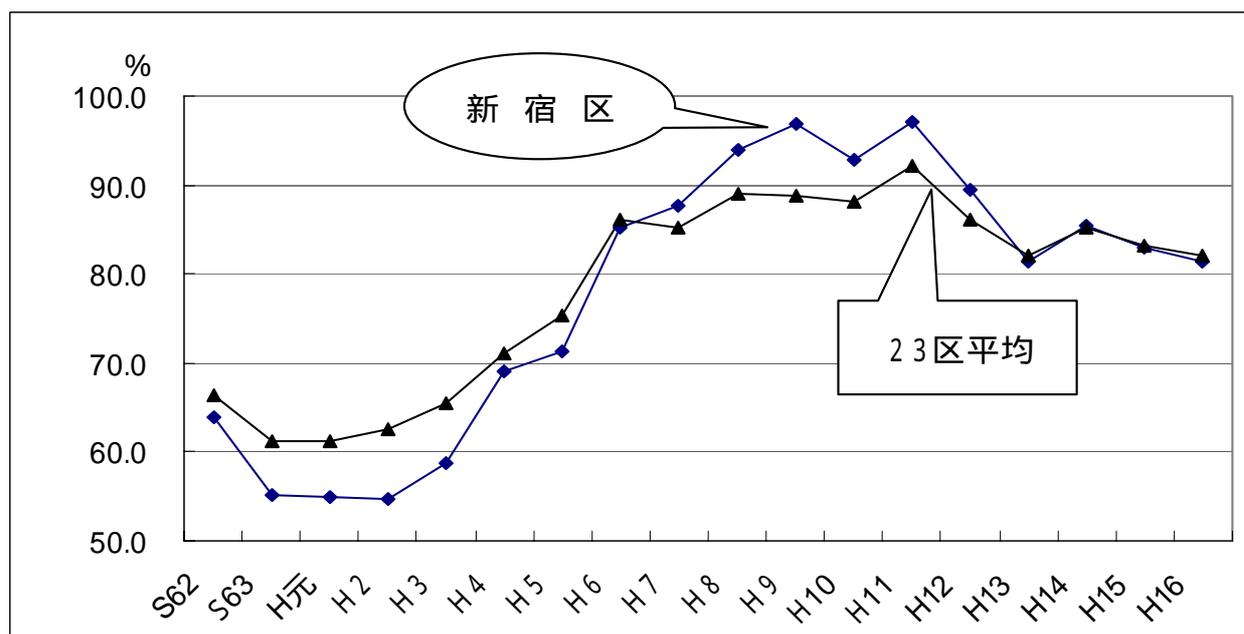
(単位：%)

年度 区分	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
新宿区	63.9 (63.9)	55.1 (55.1)	55.0 (55.0)	54.8 (54.8)	58.8 (58.8)	69.1 (69.1)	71.4 (71.4)	85.1 (79.1)	87.7 (83.0)	93.9 (87.8)	96.8 (91.6)	92.9 (90.3)	97.0 (95.7)	89.4 (88.2)	81.5 (82.7)	85.4 (86.7)	82.9 (84.1)	81.3 (82.4)
23区平均	66.4 (66.4)	61.3 (61.3)	61.3 (61.3)	62.5 (62.5)	65.5 (65.5)	71.0 (71.0)	75.4 (75.4)	86.2 (80.3)	85.3 (80.4)	89.0 (83.2)	88.8 (85.8)	88.1 (85.6)	92.1 (91.0)	86.2 (85.3)	82.0 (82.8)	85.2 (86.0)	83.1 (84.0)	82.0 (82.9)

下段( )内の13年度以降は減税補てん債等を含めない場合、12年度以前は含む場合

\* 経常収支比率は、平成13年度決算から分母に減税補てん債等を含めた数値を用い、減税補てん債等を除いたものは参考数値とする扱いに変わりました。

グラフ15



## ( 2 ) 経常収支比率を性質別に見てみると

経常収支比率を性質別に分類してみると、経常一般財源がどこに投入されたかがわかります。

義務的経費は平成6年度以降50%を超える高い割合で推移しています。なかでも人件費は、平成6年度以降12年度までは40%を超え、13年度から16年度にかけては40%未満となり、やや改善がみられるものの依然として高い状況となっています。施設管理経費などを含む物件費については、12年度以降減傾向となっています。

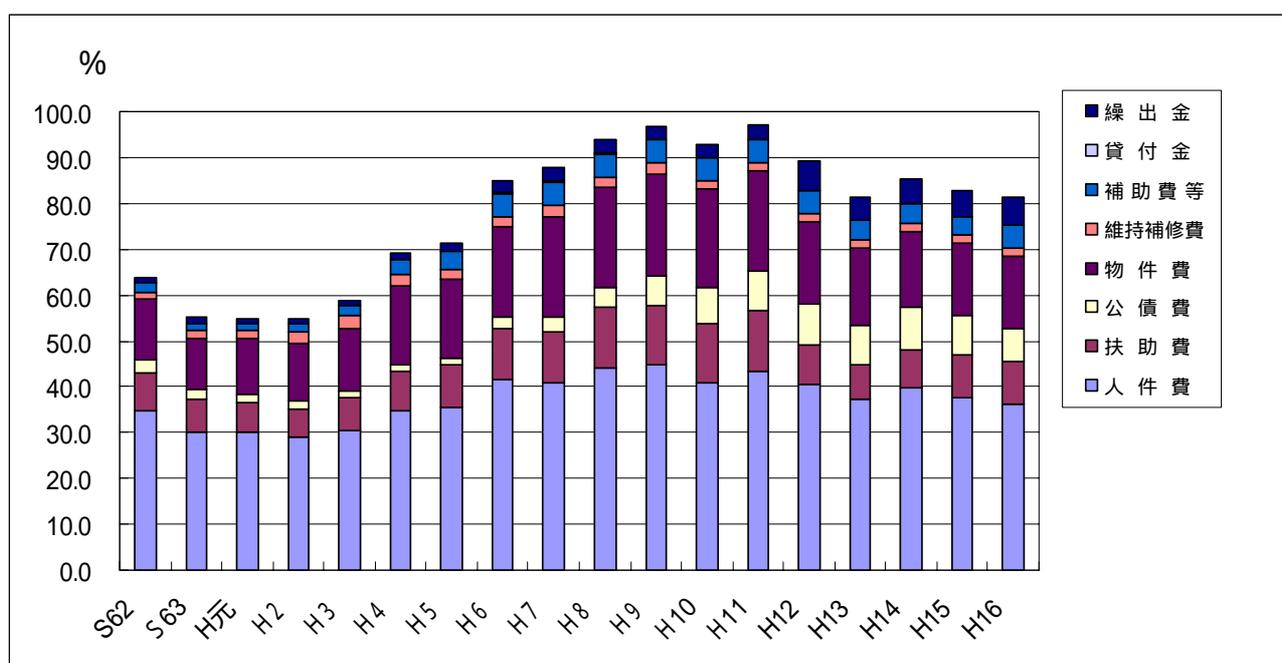
このことから、行財政改革を着実に進め、限られた資源を真に必要なところに重点的に配分していくことが、今後の財政運営に求められていると言えます。

表 1 6

( 単位 : % )

区分 \ 年度	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
人件費	34.8	30.2	30.2	28.9	30.3	34.9	35.6	41.4	41.0	44.1	44.7	40.8	43.2	40.4	37.3	39.8	37.8	36.2
扶助費	8.2	6.9	6.3	6.4	7.4	8.3	9.1	11.4	11.1	13.1	13.0	13.0	13.3	8.7	7.5	8.1	9.0	9.2
公債費	2.9	2.3	2.0	1.6	1.4	1.6	1.7	2.4	3.2	4.4	6.5	7.8	8.7	8.9	8.6	9.5	8.9	7.2
義務的経費計	45.9	39.4	38.5	36.9	39.1	44.8	46.4	55.2	55.3	61.6	64.2	61.6	65.2	58.0	53.5	57.4	55.7	52.6
物件費	13.1	11.3	12.2	12.4	13.7	17.1	16.9	19.7	21.9	21.9	22.2	21.6	21.8	18.0	16.8	16.6	15.8	15.8
維持補修費	1.7	1.5	1.7	2.5	2.7	2.7	2.2	2.3	2.3	2.0	2.4	1.7	1.8	1.7	1.7	1.5	1.5	1.8
補助費等	2.0	1.7	1.5	2.0	2.2	3.1	3.9	4.8	5.2	5.2	5.1	4.9	5.2	5.0	4.5	4.3	4.1	5.2
貸付金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
繰出金	1.2	1.2	1.1	1.0	1.1	1.3	1.8	2.8	2.6	3.0	2.9	3.1	3.0	6.7	5.1	5.6	5.7	6.0
合計	63.9	55.1	55.0	54.8	58.8	69.1	71.4	85.1	87.7	93.9	96.8	92.9	97.0	89.4	81.5	85.4	82.9	81.3

グラフ 1 6



(3) 財政を圧迫する公債費の増を示す公債費比率

区の借金(起債)が増えると、その償還のために区税等の一般財源をさらに投入しなければなりません。このことは、新たな事業に取り組むための財源に不足をきたす要因のひとつであるとともに、後世代に大きな負担をもたらします。

この借金の償還に充てる区税等の一般財源の標準財政規模に対する割合を示す指標として公債費比率があります。

公債費比率が15%を超えると財政運営上要注意となります。新宿区は10%以下の値であり、23区平均と比較しても低い水準で推移しています。

平成16年度の公債費比率は6.7%で、前年度と比較して1.2ポイントの減となりました。

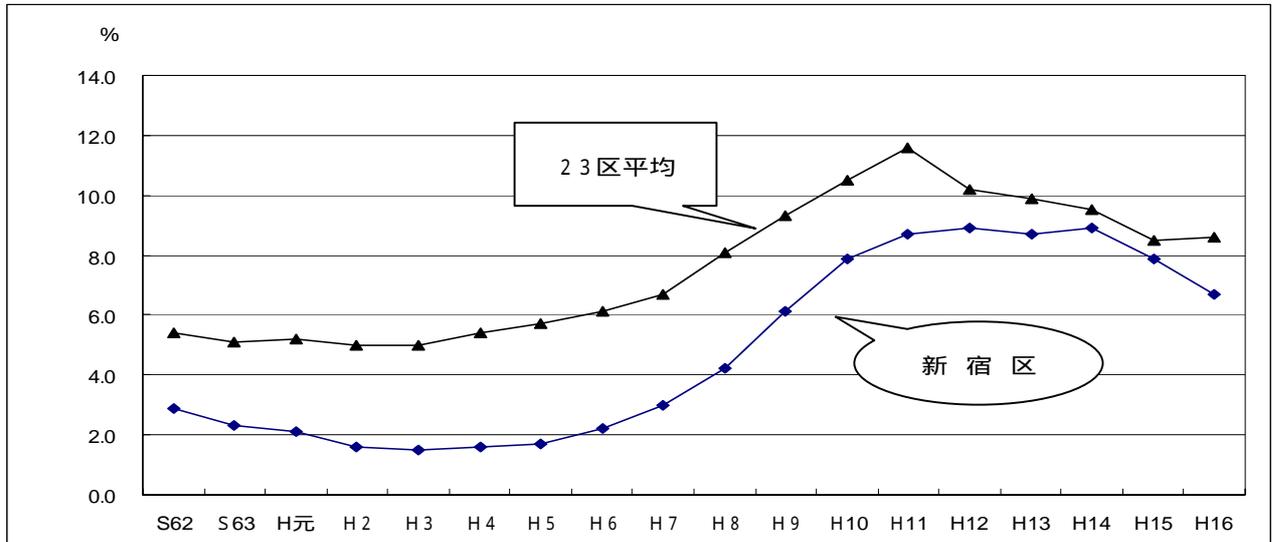
表17

(単位: %)

年度	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
新宿区	2.9	2.3	2.1	1.6	1.5	1.6	1.7	2.2	3.0	4.2	6.1	7.9	8.7	8.9	8.7	8.9	7.9	6.7
23区平均	5.4	5.1	5.2	5.0	5.0	5.4	5.7	6.1	6.7	8.1	9.3	10.5	11.6	10.2	9.9	9.5	8.5	8.6

\* 公債費比率は、平成13年度決算から分母に臨時財政対策債発行可能額を加える扱いに変わっています。

グラフ17



公債費の今後の見込みは？

17年度以降は下表のように推計しています。

(単位: 億円)

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
公債費	57	45	38	34	33	33

#### ( 4 ) 財政の運営状況を表す実質収支比率

実質収支比率は財政運営上の黒字・赤字という実質収支額を標準財政規模に対する比率で表したものであり、一般的には、概ね 3 ～ 5 % の範囲であれば財政運営が適正であると言われてています。

これは、区を運営していくのに必要なお金に対して、収支がどの程度の割合になっているかということです。この数値が小さいと、収入を行政サービスにたくさん使っているということになり、逆に大きいと、収入に対してサービスを抑えているということになります。ですから、大きすぎても、小さすぎても良い状態とはいえません。

ただし、実質収支額には年度間の財源調整を目的とする財政調整基金の積立て、取崩しの額が含まれています。

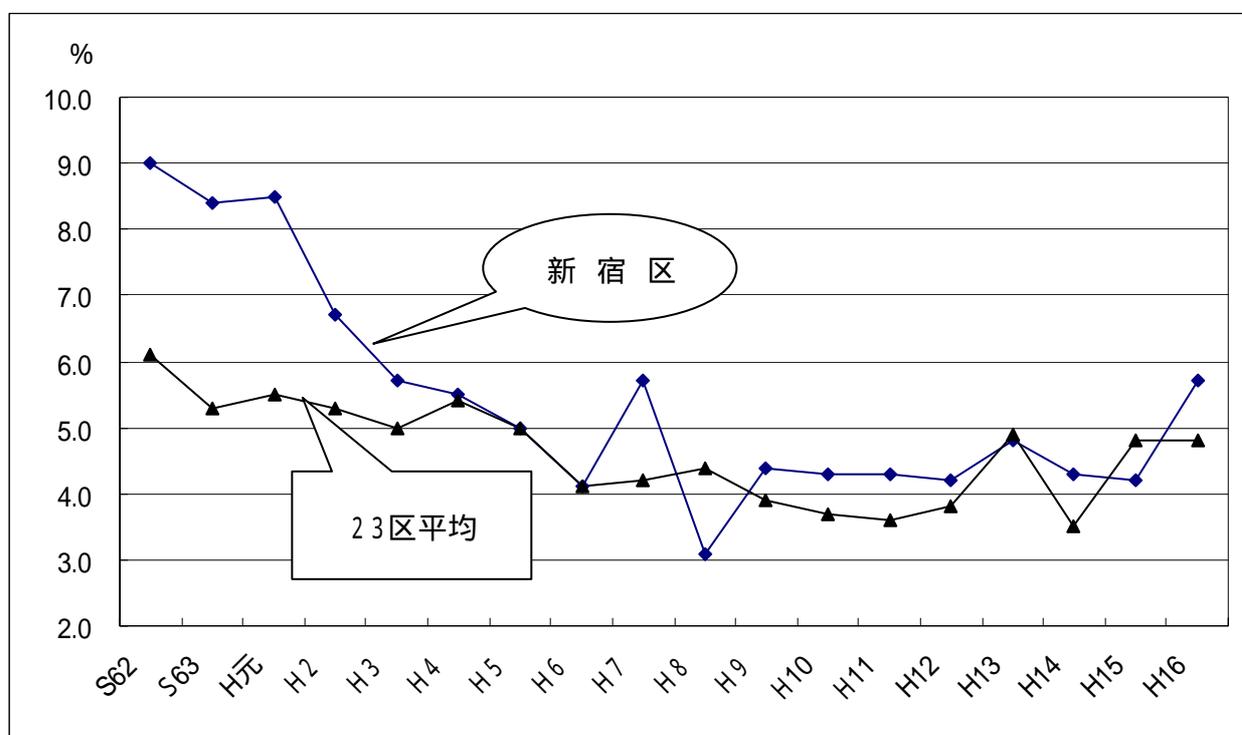
平成 16 年度の実質収支比率は 5 . 7 % で、前年度と比べ 1 . 5 ポイントの増となりました。

表 1 8

( 単位 : % )

年度 区分	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
新宿区	9.0	8.4	8.5	6.7	5.7	5.5	5.0	4.1	5.7	3.1	4.4	4.3	4.3	4.2	4.8	4.3	4.2	5.7
23区平均	6.1	5.3	5.5	5.3	5.0	5.4	5.0	4.1	4.2	4.4	3.9	3.7	3.6	3.8	4.9	3.5	4.8	4.8

グラフ 1 8



## 参 考 資 料

### 1 平成16年度 バランスシート・行政コスト計算書

#### (1) はじめに

財政状況をよりの確に把握するための方法として、従来のフロー面での決算に加えてストック面からの情報提供手法であるバランスシートへの取り組みが各自治体で行われています。

新宿区においても、平成12年3月自治省（現総務省）より「地方公共団体の総合的な財政分析に関する調査研究会報告書」が示され、全国共通基準でのバランスシートの作成が可能となったことを受けて、平成11年度決算から公表しています。

また、行政コスト計算書では、人的サービスや給付サービスなどの資産形成につながらない行政サービスの提供のためにどのような活動をしたのかについてコスト面からの把握を行っています。

自治体の個性化や競争が進んでいく分権社会においては、コスト比較なども重要なものとなっています。区民の皆さんに財政状況を理解していただくため、また他自治体との比較検討資料として活用できるなどの観点から、平成16年度決算のバランスシート及び行政コスト計算書を総務省基準により作成しました。

今後、データの示す経年変化などの財政分析を行い、健全な財政運営を目指していきます。

#### 参考1 バランスシートの作成基準等

- ・ 決算統計上、全国統一的に用いられている会計区分である「普通会計」を対象とします。
- ・ 資産取得の積算にあたっては、過去の支出額を基礎とします。（取得原価主義）
- ・ 昭和44年度以降の決算統計データを基礎数値として用います。
- ・ 作成基準日から1年以内に入金または支払の期限が到来するものを流動資産または流動負債とし、それ以外のものを固定資産、固定負債とします。（一年基準）
- ・ 会計年度末（3月31日）を作成基準とします。

各有形固定資産の価値は、取得年度のときよりも老朽化などにより価値が下がっていると考え、実態にあわせて「減価償却」します。ただし、土地は減価償却しません。

\* 1年間の減価償却費 = 取得価額 ÷ 耐用年数（地方公営企業法施行規則を参考）

たとえば、小学校建設で10億円の有形固定資産取得の場合

取得価額10億円 ÷ 耐用年数50年 = 1年間の減価償却費2千万円

教育費の有形固定資産から毎年2千万円引いていくことになります。

\* 決算統計

地方公共団体の毎年度の決算状況を、総務省が統一ルールに基づいて集計し、作成した統計

## ( 2 ) バランスシート (平成17年3月31日現在)

(単位:千円)

借 方		貸 方	
項 目		項 目	
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>1. 有形固定資産</b>		<b>1. 固定負債</b>	
(1) 総務費	46,276,231	(1) 特別区債	31,616,500
(2) 民生費	34,942,203	(2) 退職給与引当金	31,540,257
(3) 衛生費	2,737,626		
(4) 土木費	118,163,755	<b>固定負債合計</b>	<b>63,156,757</b>
(5) 消防費	6,041,530		
(6) 教育費	91,672,659	<b>2. 流動負債</b>	
(7) その他施設など	8,286,926	(1) 翌年度償還予定額	4,687,046
<b>有形固定資産合計</b>	<b>308,120,930</b>	<b>流動負債合計</b>	<b>4,687,046</b>
(うち土地)	(171,729,796)		
<b>2. 投資等</b>		<b>負債合計</b>	<b>67,843,803</b>
(1) 投資及び出資金	1,360,229		
(2) 貸付金	191,358	<b>(正味資産の部)</b>	
(3) 基金		<b>1. 国庫支出金</b>	<b>11,242,652</b>
特定目的基金	14,962,969	<b>2. 都支出金</b>	<b>10,913,598</b>
定額運用基金	300,000	<b>3. 一般財源等</b>	<b>263,678,801</b>
基金計	15,262,969	<b>正味資産合計</b>	<b>285,835,051</b>
<b>投資等合計</b>	<b>16,814,556</b>		
<b>3. 流動資産</b>			
(1) 現金・預金			
財政調整基金	12,411,603		
減債基金	7,705,184		
歳計現金	4,606,228		
現金・預金計	24,723,015		
(2) 未収金			
特別区税	3,304,281		
その他	716,072		
未収金計	4,020,353		
<b>流動資産合計</b>	<b>28,743,368</b>		
<b>資産合計</b>	<b>353,678,854</b>	<b>負債・正味資産合計</b>	<b>353,678,854</b>

## 債務負担行為に関する情報

物件の購入等に係るもの	3,375,196
債務保証又は損失補償に係るもの	24,184,311
利子補給等に係るもの	3,951,349

参考 2

バランスシートの見方

(単位:千円)

借 方		〇〇年度
項 目		
<b>〔資産の部〕</b>		
<b>1. 有形固定資産</b>	区が建設した区民生活の生活基盤 ・昭和44年以降の普通建設事業費を累計し、土地以外は減価償却額を除く。	
(1)総務費	庁舎、区民保養所、区民センターなど	〇〇〇
(2)民生費	保育所、ことぶき館、特別養護老人ホームなど	〇〇〇
(3)衛生費	保健所、リサイクル活動センターなど	〇〇〇
(4)土木費	道路、橋、公園、住宅など	〇〇〇
(5)消防費	防災センターなど	〇〇〇
(6)教育費	小・中学校、幼稚園、社会教育施設など	〇〇〇
(7)その他施設など		〇〇〇
有形固定資産合計 (うち土地)		〇〇〇 (〇〇〇)
<b>2. 投資等</b>		
(1)投資及び出資金	財団法人などの外郭団体への出資金	〇〇〇
(2)貸付金	生業資金などの貸付金	〇〇〇
(3)基金	使い道が決まっている基金	
特定目的基金	社会資本等整備基金など	〇〇〇
定額運用基金	公共料金支払基金など	〇〇〇
基金計		〇〇〇
投資等合計		〇〇〇
<b>3. 流動資産</b>		
(1)現金・預金		
財政調整基金	年度間の財源を調整のための基金	〇〇〇
減債基金	区債償還のための基金	〇〇〇
歳計現金		〇〇〇
現金・預金計		〇〇〇
(2)未収金	年度末までに収入できなかった区税等	
特別区税	区税の未収金	〇〇〇
その他	区税を除く未収金	〇〇〇
未収金計		〇〇〇
流動資産合計		〇〇〇
<b>資産合計</b>		〇〇〇
貸 方		
項 目		〇〇年度
<b>〔負債の部〕</b>		
<b>1. 固定負債</b>		
(1)特別区債	区債残高のうち翌々年に償還する予定額	〇〇〇
(2)退職給与引当金	年度末に在職する区職員全員が普通退職したと仮定した場合の退職手当の推計額	〇〇〇
固定負債合計		〇〇〇
<b>2. 流動負債</b>		
(1)翌年度償還予定額		〇〇〇
流動負債合計	区債残高のうち翌年に償還する予定額	〇〇〇
<b>負債合計</b>		〇〇〇
<b>〔正味資産の部〕</b>		
1. 国庫支出金	有形固定資産の取得等の財源から減価償却額を除いた額	〇〇〇
2. 都支出金	有形固定資産の取得等の財源から減価償却額を除いた額	〇〇〇
3. 一般財源等	資産 - 負債 - 国・都支出金	〇〇〇
正味資産合計		〇〇〇
<b>負債・正味資産合計</b>		〇〇〇

### (3) バランスシートの分析

平成16年度・15年度普通会計バランスシート(各年度3月31日現在)

(単位:千円)

借 方				貸 方			
項 目	平成16年度	平成15年度	増減	項 目	平成16年度	平成15年度	増減
<b>(資産の部)</b>				<b>(負債の部)</b>			
<b>1. 有形固定資産</b>				<b>1. 固定負債</b>			
(1)総務費	46,276,231	47,286,390	1,010,159	(1)特別区債	31,616,500	28,190,850	3,425,650
(2)民生費	34,942,203	35,738,100	795,897	(2)退職給与引当金	31,540,257	31,439,649	100,608
(3)衛生費	2,737,626	2,748,660	11,034	固定負債合計	63,156,757	59,630,499	3,526,258
(4)土木費	118,163,755	118,930,359	766,604				
(5)消防費	6,041,530	6,131,452	89,922	<b>2. 流動負債</b>			
(6)教育費	91,672,659	92,268,867	596,208	(1)翌年度償還予定額	4,687,046	11,261,961	6,574,915
(7)その他施設など	8,286,926	8,310,146	23,220	流動負債合計	4,687,046	11,261,961	6,574,915
有形固定資産合計 (うち土地)	308,120,930 (171,729,796)	311,413,974 (171,431,667)	3,293,044 (298,129)	<b>負債合計</b>	67,843,803	70,892,460	3,048,657
<b>2. 投資等</b>				<b>(正味資産の部)</b>			
(1)投資及び出資金	1,360,229	1,360,229	0	1. 国庫支出金	11,242,652	11,440,542	197,890
(2)貸付金	191,358	563,499	372,141	2. 都支出金	10,913,598	10,969,008	55,410
(3)基金				3. 一般財源等	263,678,801	258,408,405	5,270,396
特定目的基金	14,962,969	12,360,401	2,602,568	正味資産合計	285,835,051	280,817,955	5,017,096
定額運用基金	300,000	0	300,000				
基金計	15,262,969	12,360,401	2,902,568				
投資等合計	16,814,556	14,284,129	2,530,427				
<b>3. 流動資産</b>							
(1)現金・預金							
財政調整基金	12,411,603	10,985,012	1,426,591				
減債基金	7,705,184	7,698,059	7,125				
歳計現金	4,606,228	2,951,238	1,654,990				
現金・預金計	24,723,015	21,634,309	3,088,706				
(2)未収金							
特別区税	3,304,281	3,617,953	313,672				
その他	716,072	760,050	43,978				
未収金計	4,020,353	4,378,003	357,650				
流動資産合計	28,743,368	26,012,312	2,731,056				
<b>資産 合計</b>	353,678,854	351,710,415	1,968,439	<b>負債・正味資産合計</b>	353,678,854	351,710,415	1,968,439

(注記)

債務負担に関する情報

	平成16年度	平成15年度	増減
物件の購入等に係るもの	3,375,196	3,215,378	159,818
債務保証及び損失補償に係るもの	24,184,311	22,506,160	1,678,151
利子補給等に係るもの	3,951,349	4,298,664	347,315

# 区民一人あたりのバランスシート

平成16年度・15年度普通会計バランスシート(各年度3月31日現在)

(単位:千円)

借 方				貸 方			
項 目	平成16年度	平成15年度	増減	項 目	平成16年度	平成15年度	増減
<b>(資産の部)</b>				<b>(負債の部)</b>			
<b>1.有形固定資産</b>				<b>1.固定負債</b>			
(1)総務費	153	158	5	(1)特別区債	105	94	11
(2)民生費	116	119	3	(2)退職給与引当金	104	105	1
(3)衛生費	9	9	0	<b>固定負債合計</b>	<b>209</b>	<b>199</b>	<b>10</b>
(4)土木費	391	396	5				
(5)消防費	20	20	0	<b>2.流動負債</b>			
(6)教育費	303	307	4	(1)翌年度償還予定額	15	38	23
(7)その他施設など	27	28	1	<b>流動負債合計</b>	<b>15</b>	<b>38</b>	<b>23</b>
<b>有形固定資産合計</b>	<b>1,019</b>	<b>1,037</b>	<b>18</b>	<b>負債合計</b>	<b>224</b>	<b>236</b>	<b>13</b>
(うち土地)	(568)	(571)	(3)				
<b>2.投資等</b>				<b>(正味資産の部)</b>			
(1)投資及び出資金	4	5	1	1.国庫支出金	37	38	1
(2)貸付金	1	2	1	2.都支出金	36	37	0
(3)基金				3.一般財源等	872	861	11
特定目的基金	49	41	8	<b>正味資産合計</b>	<b>945</b>	<b>935</b>	<b>10</b>
定額運用基金	1	0	0				
基金計	50	41	9				
<b>投資等合計</b>	<b>56</b>	<b>48</b>	<b>8</b>				
<b>3.流動資産</b>							
(1)現金・預金							
財政調整基金	41	37	4				
減債基金	25	26	1				
歳計現金	15	10	5				
現金・預金計	81	72	9				
(2)未収金							
特別区税	11	12	1				
その他	2	3	1				
未収金計	13	15	2				
<b>流動資産合計</b>	<b>94</b>	<b>87</b>	<b>7</b>				
<b>資産合計</b>	<b>1,169</b>	<b>1,172</b>	<b>3</b>	<b>負債・正味資産合計</b>	<b>1,169</b>	<b>1,172</b>	<b>3</b>

(注記)

債務負担に関する情報

	平成16年度	平成15年度	増減
物件の購入等に係るもの	11	11	0
債務保証及び損失補償に係るもの	80	75	5
利子補給等に係るもの	13	14	1

	平成16年度	平成15年度	増減
人口(各年度末現在)	302,479人	300,217人	2,262人

注:人口は外国人登録人口を含む

## 資産・負債・正味資産の前年度比較

平成16年度の正味資産は、前年度と比べ50億円増の2,858億円となりました。

平成16年度は、平成15年度と比べ資産が20億円増加し、負債が30億円減少したため、正味資産は50億円の増となりました。

資産は、財政調整基金の増等により投資等及び流動資産が53億円の増となる一方、有形固定資産が減価償却額の減等で33億円の減となったことなどにより、20億円の増となりました。

また、流動負債が借換債72億円の発行終了による影響で66億円の減となりました。固定負債では、借換債の平成17年度以降償還分71億円が流動負債から振替増となった一方、他の特別区債の償還終了による減のため36億円の増となった結果、負債合計では30億円の減となりました。

## 社会資本形成の世代間負担比率

これまでの世代による社会資本の負担率は、2.6%増  
後世代による社会資本の負担率は、0.8%減

(単位：千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
有形固定資産合計	319,156,114	315,101,521	311,413,974	308,120,930
正味資産合計	277,433,125	278,993,124	280,817,955	285,835,051
負債合計	79,184,588	75,339,363	70,892,460	67,843,803
( / )	86.9%	88.5%	90.2%	92.8%
( / )	24.8%	23.9%	22.8%	22.0%

：(これまでの世代による)社会資本の負担比率

：(後世代による)社会資本の負担比率

社会資本整備の結果を示す有形固定資産のうち、正味資産による整備の割合を見ることにより、これまでの世代によって既に負担された分の割合を見ることができます。平成16年度のこれまでの世代による社会資本の負担比率は92.8%と前年度より2.6ポイント増加しています。この値は平成13年度から4年連続で増加となりました。これは、有形固定資産合計が減価償却等により前年度と比較して約33億円の減となった一方で正味資産が前年度と比較し約50億円の増となったためです。

一方、負債に着目し将来返済しなければならない分の割合、すなわち後世代による社会資本の負担比率は22.0%で前年度より0.8ポイント減少しています。これは、区債の計画的償還による区債残高の減等によるものです。

バランスシート上、正味資産合計とは、自治体の社会資本形成のうち、国庫支出金や一般財源等といったこれまでの世代が既に負担した金額を表しています。社会資本形成の財源が正味資産によるか負債によるか、その割合を見ることで世代間の負担を捉えることができます。

将来世代への負担を考えた場合、これまでの世代による負担率が高いことが望まれますが、公共施設の整備によって生ずる利益は将来にも及ぶものであり、世代間の負担の公平性という観点からは一概に言うことはできません。

## 歳入規模対資産比率

資産比率、対正味資産比率とも横ばい傾向

(単位：千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
資産合計	356,617,713	354,332,487	351,710,415	353,678,854
歳入合計	110,048,796	105,611,627	106,556,902	106,039,342
正味資産合計	277,433,125	278,993,124	280,817,955	285,835,051
( / )	3.2	3.4	3.3	3.3
( / )	2.5	2.6	2.6	2.7

：歳入規模対資産比率(年)

：歳入規模対正味資産比率(年)

歳入総額に対する資産の比率を計算することにより、ストックである資産の形成に何年分の歳入が充当されたかを見ることができます。

資産合計は地方公共団体の社会資本形成の総額を表すことから、歳入合計によって除すことにより、社会資本形成のために何年分の歳入が充当されたかを見ることができます。この比率により、これまで区が資本的支出に重点を置いていたのか、費用的支出に重点を置いていたのかが示されることとなります。平成16年度は3.3年であり、増減はありませんでした。

また、これまでの世代による社会資本形成に何年分の歳入が充当されたかを見るためには、正味資産合計を歳入合計で除すことで見ることができます。平成16年度は2.7年であり、前年度より0.1年増加しています。

両比率ともに、13年度からの4年間を通してみると横ばい傾向を示しています。

### 有形固定資産の行政目的別割合

構成比は、13年度以降、土木費と教育費で約7割を占めており、全行政分野で減価償却が進み、合計額が減少しています

(単位：千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
総務費	49,764,245 15.6%	48,225,313 15.3%	47,286,390 15.2%	46,276,231 15.0%
民生費	36,681,900 11.5%	36,589,651 11.6%	35,738,100 11.5%	34,942,203 11.3%
衛生費	2,342,887 0.7%	2,283,809 0.7%	2,748,660 0.9%	2,737,626 0.9%
土木費	120,472,545 37.7%	119,811,306 38.0%	118,930,359 38.2%	118,163,755 38.3%
消防費	6,532,081 2.0%	6,329,489 2.0%	6,131,452 2.0%	6,041,530 2.0%
教育費	95,005,858 29.8%	93,528,581 29.7%	92,268,867 29.6%	91,672,659 29.8%
その他	8,356,598 2.6%	8,333,372 2.6%	8,310,146 2.7%	8,286,926 2.7%
有形固定資産合計	319,156,114 100.0%	315,101,521 100.0%	311,413,974 100.0%	308,120,930 100.0%

有形固定資産の行政目的別割合を見ることにより、行政分野ごとの資産形成の比重を把握することができます。これを見ることにより、区がどこに重点を置いて社会資本を形成してきたかがわかります。また、このデータを自治体間で比較することにより、各自治体の資産形成の特徴を捉えることができます。

16年度は全ての行政分野で減価償却等により減となりました。

なお、この指標は社会資本の形成割合を示すものですから、この割合が低いからといって、その行政分野のサービスが低いということではありません。例えば、民生費は予算に占める割合は高くなっていますが、その多くは扶助費などのようにその年度中に消費されてしまうという性格のサービスであるため社会資本形成には結びつきません。この消費された行政サービスを表すのは次の「行政コスト計算書」になります。

#### (4) 行政コスト計算書

平成16年度・15年度行政コスト計算書(各年度 4月1日～3月31日)

(単位：千円)

項 目	平成16年度	平成15年度	増 減
人件費	26,803,487	27,555,187	751,700
退職給与引当金繰入等	2,483,633	1,767,681	715,952
物件費	16,628,069	16,612,933	15,136
維持補修費	1,478,501	1,322,822	155,679
減価償却費	6,642,835	6,717,660	74,825
扶助費	24,062,224	22,503,375	1,558,849
補助費等	4,941,612	4,642,590	299,022
繰出金	9,137,302	9,055,271	82,031
普通建設事業費 (他団体への補助金等)	1,127,741	1,368,448	240,707
公債費(利子分のみ)	1,121,012	1,317,185	196,173
不納欠損額	653,362	1,094,466	441,104
行政コスト 合計 a	95,079,778	93,957,618	1,122,160
使用料・手数料等 b	8,262,894	7,362,028	900,866
国庫(都)支出金 c	19,553,159	19,101,352	451,807
一般財源 d	72,129,240	69,238,946	2,890,294
収入 合計[b+c+d] e	99,945,293	95,702,326	4,242,967
正味資産国庫(都)支出金償却額 f	428,831	466,855	38,024
期首一般財源等 g	258,408,405	256,224,773	2,183,632
差引一般財源増減額 (e+f-a)h	5,294,346	2,211,563	3,082,783
基金、貸付金等調整額 i	23,950	27,931	3,981
期末一般財源等(g+h+i)	263,678,801	258,408,405	5,270,396

### 参 考 3 行政コスト計算書の見方

項 目		〇〇年度
人にかかるコスト		
人 件 費	区職員の給与や議員の報酬などの経費(人件費)	〇〇〇〇
退職給与引当金繰入等	区職員の退職給与の引当額(退職給与引当金繰入金)	〇〇〇〇
物にかかるコスト		
物 件 費	施設管理等の委託費や物品購入などの経費(物件費)	〇〇〇〇
維持補修費	建物等の維持補修費(維持補修費)	〇〇〇〇
減価償却費	固定資産の減価償却費(減価償却費)	〇〇〇〇
移転支出的なコスト		
扶 助 費	各種の福祉手当や生活保護などの経費(扶助費)	〇〇〇〇
補助費等	各種公益団体事業に対する補助金などの経費(補助費等)	〇〇〇〇
繰 出 金	国民健康保険特別会計などに繰出す経費(繰出金)	〇〇〇〇
普通建設事業費 (他団体への補助金等)	建設事業に対して支出した経費(普通建設事業費)	〇〇〇〇
その他のコスト		
公債費(利子分のみ)	借り入れている地方債の支払利息(公債費)	〇〇〇〇
不納欠損額	未納税収額等に対する貸倒引当額(不納欠損額)	〇〇〇〇
行政コスト 合計	a	〇〇〇〇
使用料・手数料等	b バランスシートで経理されない分担金及び負担金、使用料、手数料、財産収入、寄附金、繰入金、諸収入	〇〇〇〇
国庫(都)支出金	c 資産形成の財源となったものを除く国庫(都)支出金	〇〇〇〇
一般財源	d 特別区税、地方譲与税、地方特例交付金等	〇〇〇〇
収 入 合 計[b+c+d]	e	〇〇〇〇
正味資産国庫(都)支出金償却額	f 固定資産の減価償却費のうち、その財源となった国及び都支出金	〇〇〇〇
期首一般財源等	g	〇〇〇〇
差引一般財源増減額 (e+f-a)h		〇〇〇〇
基金、貸付金等調整額	i	〇〇〇〇
期末一般財源等(g+h+i)		〇〇〇〇

## (5) 行政コスト計算書の分析

### 総括

バランスシートは、区の財政状況を明らかにするため、一定時点において区が保有する資産、負債などのストックの状況を総括的に表示した報告書です。

一方、区の行政活動は将来の世代も利用できる資産の形成だけでなく、人的サービスや給付サービスなどの資産形成につながらない当該年度の行政サービスが大きな比重を占めています。この行政サービスの提供に対して区がどのような活動を行ってきたかを説明するものが行政コスト計算書です。

行政コストを大きく4つに分類し、平成16年度と平成15年度を比較してみると次のことがわかります。

#### 人にかかるコスト

**人件費は、7億5,170万円の減。**

これは、「行財政改革計画」等に基づく職員数の削減効果等によるものです。

**退職給与引当金繰入金は7億1,595万2千円の増。**

退職給与引当金繰入金は、現金の増減を伴わない負債の増加と費用の発生です。

#### 物にかかるコスト

**物件費は、1,513万6千円の増。**

これは、実績増によるものです。

**維持補修費は、1億5,567万9千円の増。**

これは、建物の維持補修の実績増などによるものです。

**減価償却費は、7,482万5千円の減。**

減価償却費は、バランスシートに計上した資産についての減価償却額で現金の増減を伴わない資産の減少と費用の発生です。

#### 移転支出的なコスト

**扶助費は、15億5,884万9千円の増。**

これは、生活保護費の増などによるものです。

**普通建設事業費は、2億4,070万7千円の減。**

これは、保育所等建設事業助成の減等によるものです。

**補助費等は、2億9,902万2千円の増。**

これは、財団派遣職員分給与を人件費から組替えたことなどによるものです。

**繰出金は、8,203万1千円の増。**

これは、主に介護保険特別会計への繰出しの増によるものです。

#### その他のコスト

不納欠損額は未収金について不納欠損処理を行った場合に計上するもので、現金の増減を伴わない資産の減少と費用の発生であり、4億4,110万4千円の減となっています。

行政コスト対有形固定資産比率， 収入項目対行政コスト比率

(単位：千円)

		平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
1 人にかかるコスト	a	32,138,671	31,562,966	29,322,868	29,287,120
a / f		10.1%	10.0%	9.4%	9.5%
2 物にかかるコスト	b	26,127,182	25,046,370	24,653,415	24,749,405
b / f		8.2%	7.9%	7.9%	8.0%
3 移転的支出にかかるコスト	c	37,264,563	35,756,770	37,569,684	39,268,879
c / f		11.7%	11.3%	12.1%	12.7%
4 その他のコスト	d	2,285,340	2,294,200	2,411,651	1,774,374
d / f		0.7%	0.7%	0.8%	0.6%
行政コスト合計	e	97,815,756	94,660,306	93,957,618	95,079,778
e / f		30.6%	30.0%	30.2%	30.9%
有形固定資産合計	f	319,156,114	315,101,521	311,413,974	308,120,930
使用料・手数料等	g	8,634,027	9,325,072	7,362,028	8,262,894
g / e		8.8%	9.9%	7.8%	8.7%
国庫(都)支出金	h	18,904,463	17,790,604	19,101,352	19,553,159
h / e		19.3%	18.8%	20.3%	20.6%
一般財源	i	73,493,854	68,876,119	69,238,946	72,129,240
i / e		75.1%	72.8%	73.7%	75.9%

行政コスト対有形固定資産比率では、資産を活用するためにどれだけのコストがかけられているかを性質別に見ることができます。

この表から区が保有する有形固定資産に対して、行政コスト全体で約3割のコストをかけていることがわかります。

収入項目対行政コスト比率では、行政コストを各収入でどれだけ賄っているかを見ることができます。

平成16年度では、使用料・手数料等で8.7%、国庫(都)支出金で20.6%が賄われています。また、税等の一般財源の負担率は75.9%となっています。

平成15年度 行政目的別行政コスト計算書(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

	総額	(構成比率)	議会費	総務費	民生費	衛生費	労働費	
1	(1)人件費	27,555,187	29.3%	589,956	5,439,875	8,494,946	5,128,554	3,674
	(2)退職給与引当金繰入等	1,767,681	1.9%	37,846	348,971	544,956	329,000	236
	小計	29,322,868	31.2%	627,802	5,788,846	9,039,902	5,457,554	3,910
2	(1)物件費	16,612,933	17.7%	49,360	3,963,997	1,633,689	4,650,767	183,889
	(2)維持補修費	1,322,822	1.4%	0	168,449	103,741	158,938	0
	(3)減価償却費	6,717,660	7.1%	544	1,522,458	990,832	140,817	4,382
	小計	24,653,415	26.2%	49,904	5,654,904	2,728,262	4,950,522	188,271
3	(1)扶助費	22,503,375	24.0%			21,096,527	1,171,455	
	(2)補助費等	4,642,590	4.9%	64,698	713,894	874,447	1,697,705	144,652
	(3)繰出金	9,055,271	9.6%		0	9,055,271	0	0
	(4)普通建設事業費 (他団体への補助金等)	1,368,448	1.5%	0	0	786,692	720	0
	小計	37,569,684	40.0%	64,698	713,894	31,812,937	2,869,880	144,652
4	(1)災害復旧事業	0	0.0%					
	(2)失業対策事業費	0	0.0%					
	(3)公債費(利子分のみ)	1,317,185	1.4%					
	(4)債務負担行為繰入	0	0.0%					
	(5)不納欠損額	1,094,466	1.2%					
	小計	2,411,651	2.6%	0	0	0	0	0
行政コスト a	93,957,618		742,404	12,157,644	43,581,101	13,277,956	336,833	
(構成比率)			0.8%	12.9%	46.4%	14.1%	0.4%	

100.0%

【収入項目】

1 使用料・手数料等 b	7,362,028		20,179	1,089,201	1,663,530	2,283,390	9,800
b/a	7.8%		2.7%	9.0%	3.8%	17.2%	2.9%
2 国庫(都)支出金 c	19,101,352			1,009,610	16,385,077	817,841	53,142
c/a	20.3%			8.3%	37.6%	6.2%	15.8%
3 一般財源 d	69,238,946						
d/a	73.7%						
収入(b+c+d) e	95,702,326						
4 正味資産国庫(県)支出金償却額 f	466,855						
5 期首一般財源等 g	256,224,773						
6 差引(ef-a) h 一般財源等増減額	2,211,563						
7 基金、貸付金等調整額 (元金免除等の調整) i	27,931						
8 期末一般財源等 (g+h+i)	258,408,405						

「使用料・手数料等」…分担金及び負担金、使用料、手数料、財産収入、寄付金、繰入金、諸収入

「一般財源」…地方税、地方譲与税、利子割交付金、地方消費税交付金、ゴルフ場利用税交付金、特別地方消費税交付金、軽油・自動車取得税交付金、地方特例交付金、地方交付税、交通安全対策特別交付金、国有提供施設等所在市町村助成交付金

(単位:千円)

農林水産業費	商工費	土木費	消防費	教育費	災害復旧費	公債費	諸支出金	不納欠損額
0	185,113	2,180,647	104,935	5,427,487			0	
0	11,875	139,890	6,732	348,176			0	
0	196,988	2,320,537	111,667	5,775,663			0	
0	132,908	2,398,242	127,925	3,467,681		4,475	0	
0	1,540	585,841	16,995	287,318				
0	18,300	1,679,096	214,337	2,146,894				
0	152,748	4,663,179	359,257	5,901,893		4,475	0	
				235,393				
0	205,926	461,859	18,241	461,168	0		0	
0	0	0	0	0			0	
0	70,396	454,247	56,393	0				
0	276,322	916,106	74,634	696,561	0		0	
						1,317,185		
								1,094,466
0	0	0	0	0	0	1,317,185		1,094,466
0	626,058	7,899,822	545,558	12,374,117	0	1,321,660	0	1,094,466
0.0%	0.7%	8.4%	0.6%	13.2%	0.0%	1.4%	0.0%	1.2%

0	55,382	1,354,332	10,012	696,413	0	179,790	0	
0.0%	8.8%	17.1%	1.8%	5.6%	0.0%	13.6%	0.0%	
0	88,188	611,292	30,163	106,039	0		0	
0.0%	14.1%	7.7%	5.5%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	

平成16年度 行政目的別行政コスト計算書(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

	総額	(構成比率)	議会費	総務費	民生費	衛生費	労働費	
1	(1)人件費	26,803,487	28.2%	595,629	5,514,868	8,371,851	4,894,017	0
	(2)退職給与引当金繰入等	2,483,633	2.6%	55,191	511,012	775,743	453,484	0
	小計	29,287,120	30.8%	650,820	6,025,880	9,147,594	5,347,501	0
2	(1)物件費	16,628,069	17.5%	37,497	3,870,859	1,624,519	4,579,659	252,871
	(2)維持補修費	1,478,501	1.6%	0	146,242	120,517	146,786	0
	(3)減価償却費	6,642,835	7.0%	538	1,532,562	977,332	145,597	4,382
	小計	24,749,405	26.0%	38,035	5,549,663	2,722,368	4,872,042	257,253
3	(1)扶助費	24,062,224	25.3%			22,677,292	1,137,584	
	(2)補助費等	4,941,612	5.2%	60,283	600,604	983,113	1,717,837	209,856
	(3)繰出金	9,137,302	9.6%		0	9,137,302	0	0
	(4)普通建設事業費 (他団体への補助金等)	1,127,741	1.2%	0	0	236,526	772	0
	小計	39,268,879	41.3%	60,283	600,604	33,034,233	2,856,193	209,856
4	(1)災害復旧事業	0	0.0%					
	(2)失業対策事業費	0	0.0%					
	(3)公債費(利子分のみ)	1,121,012	1.2%					
	(4)債務負担行為繰入	0	0.0%					
	(5)不納欠損額	653,362	0.7%					
	小計	1,774,374	1.9%	0	0	0	0	0
行政コスト a	95,079,778		749,138	12,176,147	44,904,195	13,075,736	467,109	
(構成比率)			0.8%	12.8%	47.2%	13.8%	0.5%	
100.0%								

【収入項目】

1 使用料・手数料等 b	8,262,894		33,417	1,190,127	2,174,572	2,370,160	19,534
b/a	8.7%		4.5%	9.8%	4.8%	18.1%	4.2%
2 国庫(都)支出金 c	19,553,159			1,001,576	16,963,407	597,650	57,584
c/a	20.6%			8.2%	37.8%	4.6%	12.3%
3 一般財源 d	72,129,240						
d/a	75.9%						
収入(b+c+d) e	99,945,293						
4 正味資産国庫(県)支出金償却額 f	428,831						
5 期首一般財源等 g	258,408,405						
6 差引(e+f-a) h	5,294,346						
7 基金、貸付金等調整額(元金免除等の調整) i	23,950						
8 期末一般財源等(g+h+i)	263,678,801						

「使用料・手数料等」…分担金及び負担金、使用料、手数料、財産収入、寄付金、繰入金、諸収入

「一般財源」…地方税、地方譲与税、利子割交付金、地方消費税交付金、ゴルフ場利用税交付金、特別地方消費税交付金、軽油・自動車取得税交付金、地方特例交付金、地方交付税、交通安全対策特別交付金、国有提供施設等所在市町村助成交付金

(単位:千円)

農林水産業費	商工費	土木費	消防費	教育費	災害復旧費	公債費	諸支出金	不納欠損額
0	189,414	2,107,953	120,909	5,008,846			0	
0	17,551	195,325	11,204	464,124			0	
0	206,965	2,303,278	132,113	5,472,970			0	
0	133,048	2,433,824	147,333	3,545,653		2,806	0	
0	3,121	647,087	15,649	399,099				
0	18,300	1,656,934	128,652	2,178,538				
0	154,469	4,737,845	291,634	6,123,290		2,806	0	
				247,348				
0	219,294	427,849	18,304	704,472	0		0	
0	0	0	0	0			0	
0	61,042	793,509	35,892	0				
0	280,336	1,221,358	54,196	951,820	0		0	
						1,121,012		
								653,362
0	0	0	0	0	0	1,121,012		653,362
0	641,770	8,262,481	477,943	12,548,080	0	1,123,818	0	653,362
0.0%	0.7%	8.7%	0.5%	13.2%	0.0%	1.2%	0.0%	0.7%

0	71,024	1,143,791	17,695	987,459	0	255,118	0	
0.0%	11.1%	13.8%	3.7%	7.9%	0.0%	22.7%	0.0%	
0	80,480	756,813	78	95,571	0		0	
0.0%	12.5%	9.2%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	

## 2 財政データ集

### (1) 普通会計決算の推移

#### 概要

区分		昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度
翌4月1日現在人口		323,416人	317,660人	308,498人	301,527人	295,647人	290,025人	284,950人	283,491人
歳入総額	A	83,575,450	89,740,478	120,709,336	126,720,993	140,438,685	133,702,688	123,292,658	120,877,385
歳出総額	B	78,411,929	78,663,495	103,054,750	120,571,128	135,488,094	127,675,033	119,084,521	117,864,103
歳入歳出差引額 (A) - (B)	C	5,163,521	11,076,983	17,654,586	6,149,865	4,950,591	6,027,655	4,208,137	3,013,282
翌年度へ繰り越す べき財源	D	27,300	5,339,722	11,580,066	788,607	485,675	2,044,880	685,815	149,048
実質収支 (C) - (D)	E	5,136,221	5,737,261	6,074,520	5,361,258	4,464,916	3,982,775	3,522,322	2,864,234
単年度収支	F	1,317,726	601,040	337,259	713,262	896,342	482,141	460,453	658,088
積立金	G	3,216,611	3,237,366	4,012,128	4,891,565	4,270,161	3,236,555	2,521,738	2,096,844
繰上償還金	H	0	0	0	0	0	0	0	0
積立金とりくずし額	I	2,847,000	0	0	4,825,000	10,953,000	3,646,000	2,800,000	3,500,000
実質単年度収支 (F)+(G)+(H)-(I)	J	1,687,337	3,838,406	4,349,387	646,697	7,579,181	891,586	738,715	2,061,244
基準財政需要額		50,772,598	60,948,445	63,887,745	71,432,560	70,114,929	63,968,148	63,463,803	61,766,987
基準財政収入額		36,174,075	41,613,276	43,815,049	47,891,599	49,203,906	48,290,463	43,001,166	42,765,925
標準財政規模		57,071,184	68,210,894	71,531,834	79,789,913	78,697,316	72,383,976	70,952,214	69,206,627
財政力指数		0.76	0.72	0.69	0.68	0.69	0.71	0.71	0.69
実質収支比率		9.0%	8.4%	8.5%	6.7%	5.7%	5.5%	5.0%	4.1%
公債費比率		2.9%	2.3%	2.1%	1.6%	1.5%	1.6%	1.7%	2.2%
経常収支比率 <small>(分母に減税補てん償等を含む)</small>		63.9%	55.1%	55.0%	54.8%	58.8%	69.1%	71.4%	85.1%
地方債現在高		9,123,381	8,283,257	7,773,402	7,276,005	10,518,957	15,161,776	21,903,195	34,441,563
債務負担行為額		2,267,190	3,673,501	13,936,358	16,048,156	19,820,388	29,378,223	41,350,963	36,030,492
収益事業収入		147,664	208,838	272,353	301,202	301,202	174,921	70,000	60,000

(単位:千円)

平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
280,756 人	280,489 人	282,012 人	283,389 人	285,025 人	288,285 人	292,666 人	296,444 人	300,217 人	302,479 人
104,768,281	117,714,668	101,821,894	105,555,135	106,615,287	107,772,125	108,789,137	104,631,128	105,773,383	105,417,320
100,610,868	114,445,547	98,890,926	102,210,082	103,902,117	104,701,569	105,349,065	101,628,955	102,822,145	100,811,092
4,157,413	3,269,121	2,930,968	3,345,053	2,713,170	3,070,556	3,440,072	3,002,173	2,951,238	4,606,228
191,471	1,294,509	2,139	485,199	0	64,999	0	0	102,000	604,310
3,965,942	1,974,612	2,928,829	2,859,854	2,713,170	3,005,557	3,440,072	3,002,173	2,849,238	4,001,918
1,101,708	1,991,330	954,217	68,975	146,684	292,387	434,515	437,899	152,935	1,152,680
1,587,612	2,058,396	1,581,492	1,505,895	1,439,324	1,360,583	1,504,799	1,721,821	1,502,726	1,426,591
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	9,680,000	3,600,000	1,900,000	4,500,000	0	0	0	0	0
2,689,320	9,612,934	1,064,291	463,080	3,207,360	1,652,970	1,939,314	1,283,922	1,349,791	2,579,271
61,901,495	57,922,823	58,665,956	58,944,126	56,291,844	63,657,992	64,206,232	62,194,222	61,459,693	63,364,876
42,896,010	38,711,447	41,620,554	41,025,590	40,125,368	41,284,680	40,809,580	40,941,708	40,609,495	41,779,609
69,364,253	64,641,330	65,896,148	66,073,620	63,258,217	70,829,573	71,292,851	69,301,427	68,509,760	70,612,776
0.69	0.68	0.69	0.69	0.71	0.69	0.67	0.65	0.65	0.66
5.7%	3.1%	4.4%	4.3%	4.3%	4.2%	4.8%	4.3%	4.2%	5.7%
3.0%	4.2%	6.1%	7.9%	8.7%	8.9%	8.7%	8.9%	7.9%	6.7%
87.7%	93.9%	96.8%	92.9%	97.0%	89.4%	82.7%	86.7%	84.1%	82.4%
(83.0%)	(87.8%)	(91.6%)	(90.3%)	(95.7%)	(88.2%)	(81.5%)	(85.4%)	(82.9%)	(81.3%)
41,383,844	52,295,868	54,639,013	55,370,763	53,222,238	50,236,671	47,208,373	43,370,440	39,445,580	36,296,315
33,642,477	19,529,199	20,331,814	18,197,802	16,812,113	1,319,453	9,658,687	8,799,371	7,514,042	7,326,545
50,000	40,000	110,000	100,000	70,000	50,000	100,000	55,000	50,000	50,000

歳 入

区 分	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度
特別区税	40,752,003	44,842,276	44,252,759	45,590,781	48,550,560	49,091,874	43,641,712	37,083,014
地方譲与税	403,353	411,624	3,133,282	3,549,741	3,562,518	4,082,440	4,491,071	4,497,128
利子割交付金		2,087,269	3,561,475	5,239,347	3,838,899	1,715,918	2,358,381	2,689,634
配当割交付金								
株式等譲渡所得割交付金								
地方消費税交付金								
自動車取得税交付金	885,079	1,088,021	1,154,648	1,192,153	1,105,842	912,623	814,889	876,348
地方特例交付金								
財政調整交付金	15,081,027	19,775,635	22,674,077	26,782,138	24,344,613	19,238,109	22,305,382	21,066,737
普通	14,598,523	19,335,169	20,072,696	23,540,961	20,911,023	15,677,685	20,462,637	19,001,062
特別	482,504	440,466	2,601,381	3,241,177	3,433,590	3,560,424	1,842,745	2,065,675
交通安全交付金	75,433	64,563	61,986	71,063	82,105	72,913	67,683	67,009
一般財源計	57,196,895	68,269,388	74,838,227	82,425,223	81,484,537	75,113,877	73,679,118	66,279,870
分担金・負担金	1,788,760	2,002,246	1,936,127	1,916,921	1,952,140	2,010,467	2,001,878	1,950,268
使用料	1,316,859	1,317,676	1,446,039	1,480,475	1,581,931	1,722,183	1,775,837	1,929,411
手数料	293,296	294,156	283,521	293,778	294,978	290,919	301,822	317,157
国庫支出金	5,878,196	5,798,571	9,039,182	6,884,396	8,026,803	8,828,149	12,783,040	10,246,705
都支出金	3,815,565	2,816,525	4,454,073	3,269,379	4,723,758	4,090,385	4,861,469	4,628,174
財産収入	1,495,980	1,289,773	3,010,472	3,217,951	6,938,039	13,091,712	3,941,682	2,282,280
寄附金	179,632	73,270	73,890	152,325	172,648	65,326	174,026	77,926
繰入金	2,908,534	122,953	11,217,563	4,892,483	21,308,149	14,282,640	7,123,731	12,190,351
繰越金	6,275,484	5,163,521	11,076,983	17,654,586	6,149,865	4,950,591	6,027,655	4,208,137
諸収入	2,097,849	2,502,399	2,924,359	4,255,176	3,894,837	4,092,339	3,497,000	3,579,106
地方債	328,400	90,000	408,900	278,300	3,911,000	5,164,100	7,125,400	13,188,000
特定財源計	26,378,555	21,471,090	45,871,109	44,295,770	58,954,148	58,588,811	49,613,540	54,597,515
合 計	83,575,450	89,740,478	120,709,336	126,720,993	140,438,685	133,702,688	123,292,658	120,877,385

(単位:千円)

平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
37,706,740	35,093,923	38,962,802	38,058,164	34,963,178	34,409,699	35,600,303	35,490,190	35,152,926	35,438,169
4,557,046	4,621,544	1,989,260	563,789	578,529	588,059	588,118	590,501	618,853	1,140,426
2,652,648	1,265,839	1,106,571	950,247	882,180	2,207,348	2,224,537	857,544	669,071	572,982
									149,795
									156,856
		1,711,983	7,240,343	6,737,340	6,947,786	7,497,584	6,629,970	7,603,200	8,551,734
910,561	954,482	870,084	732,706	647,901	670,512	695,573	615,054	755,544	684,984
				2,075,186	2,431,686	2,477,871	2,544,667	2,594,832	2,704,128
20,678,855	20,386,365	18,258,672	18,502,729	16,929,160	23,511,456	24,287,190	21,878,735	21,490,741	22,345,925
19,005,485	19,211,376	17,045,402	17,918,536	16,166,476	22,373,312	23,396,652	21,252,514	20,850,198	21,585,267
1,673,370	1,174,989	1,213,270	584,193	762,684	1,138,144	890,538	626,221	640,543	760,658
67,763	68,467	70,233	71,755	70,953	62,593	67,380	66,450	70,276	67,165
66,573,613	62,390,620	62,969,605	66,119,733	62,884,427	70,829,139	73,438,556	68,673,111	68,955,443	71,812,164
2,058,559	2,107,220	2,149,874	2,242,831	2,153,246	1,477,022	1,450,626	1,408,506	1,299,235	1,311,761
2,215,817	2,441,228	2,549,477	2,626,533	2,464,375	2,796,155	3,007,946	3,097,327	3,200,391	3,309,132
325,193	333,814	387,805	392,263	383,144	1,355,016	1,254,093	1,206,709	1,149,404	1,090,471
10,253,457	11,200,774	11,057,914	12,771,066	14,979,030	11,127,348	13,444,403	12,764,973	13,831,457	14,719,663
4,552,772	4,565,676	4,689,659	4,336,970	4,796,161	6,030,101	5,796,786	5,365,308	5,377,949	5,009,027
1,615,013	552,858	337,398	362,725	1,929,385	923,144	1,215,594	2,378,337	659,490	1,624,008
84,038	83,222	73,383	94,196	138,360	81,862	70,128	79,425	90,123	67,033
2,373,494	11,449,227	5,156,630	4,941,066	7,683,150	4,907,956	840,759	2,538,204	4,954,620	7,915
3,013,282	4,157,413	3,269,121	2,930,968	3,345,053	2,713,170	3,070,556	3,440,072	3,002,173	2,951,238
4,306,143	6,631,616	4,828,028	4,843,784	4,455,956	3,835,912	3,339,090	2,347,825	2,226,898	2,494,208
7,396,900	11,801,000	4,353,000	3,893,000	1,403,000	1,695,300	1,860,600	1,331,331	1,026,200	1,020,700
38,194,668	55,324,048	38,852,289	39,435,402	43,730,860	36,942,986	35,350,581	35,958,017	36,817,940	33,605,156
104,768,281	117,714,668	101,821,894	105,555,135	106,615,287	107,772,125	108,789,137	104,631,128	105,773,383	105,417,320

歳 出  
ア 性質別

区 分	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度
人 件 費	21,765,433	22,483,058	24,036,656	25,433,617	26,433,931	27,606,441	28,227,680	29,219,959
うち職員給	16,829,246	17,332,641	17,959,697	19,169,540	20,042,550	20,783,645	21,233,081	21,493,680
扶 助 費	12,141,512	12,367,585	12,268,065	12,869,279	13,946,767	14,460,179	15,587,905	17,327,127
公 債 費	1,630,137	1,559,724	1,483,646	1,299,113	1,153,822	1,142,830	1,240,991	1,789,388
元利償還金	1,630,137	1,559,724	1,483,646	1,299,113	1,153,822	1,142,830	1,240,991	1,789,388
一時借入金利子	0	0	0	0	0	0	0	0
義務的経費計	35,537,082	36,410,367	37,788,367	39,602,009	41,534,520	43,209,450	45,056,576	48,336,474
物 件 費	8,709,047	9,048,425	10,677,489	11,602,855	12,717,852	15,360,774	16,111,295	17,250,977
維持補修費	1,592,649	1,628,358	1,893,846	2,347,523	2,373,203	2,218,552	1,830,613	1,729,527
補助費等	1,759,571	1,881,557	2,525,360	2,428,228	2,705,367	3,262,742	3,956,920	4,050,675
積 立 金	12,403,268	11,342,429	10,759,879	26,848,313	10,661,233	9,785,300	7,019,441	2,567,262
投資・出資金	220,000	1,500	2,512	510,000	201,000	1,239,272	800,000	5,000
貸 付 金	1,054,659	1,045,990	1,231,846	1,950,348	2,464,573	2,512,711	1,891,968	1,946,683
繰 出 金	2,544,517	3,250,463	3,446,737	2,940,175	2,894,818	3,399,025	3,749,165	4,173,140
繰上充用金	0	0	0	0	0	0	0	0
その他経費計	28,283,711	28,198,722	30,537,669	48,627,442	34,018,046	37,778,376	35,359,402	31,723,264
普通建設	14,569,035	14,037,358	34,713,782	32,331,884	59,928,936	46,684,490	38,668,543	37,804,365
補 助	1,439,274	949,865	9,770,194	3,084,852	3,868,616	4,848,534	11,718,377	5,174,409
単 独	13,129,761	13,087,493	24,943,588	29,247,032	56,060,320	41,835,956	26,950,166	32,629,956
災害復旧	0	0	0	0	0	0	0	0
失業対策	22,101	17,048	14,932	9,793	6,592	2,717	0	0
投資的経費計	14,591,136	14,054,406	34,728,714	32,341,677	59,935,528	46,687,207	38,668,543	37,804,365
合 計	78,411,929	78,663,495	103,054,750	120,571,128	135,488,094	127,675,033	119,084,521	117,864,103

イ 目的別

区 分	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度
議 会 費	750,364	761,631	816,766	848,128	838,422	925,288	887,868	882,641
総 務 費	13,909,017	15,470,545	18,363,528	25,399,597	25,785,887	22,375,100	24,913,147	27,023,900
民 生 費	23,584,923	22,918,609	31,525,381	28,828,336	38,038,113	31,264,901	33,626,533	38,697,398
衛 生 費	4,429,567	4,970,886	4,997,111	5,206,100	5,653,751	5,947,445	6,417,376	6,671,217
労 働 費	352,069	361,831	365,172	369,839	344,004	379,245	730,257	494,548
農林水産業費	0	0	0	0	0	0	0	0
商 工 費	1,006,051	1,172,814	1,077,263	1,086,456	1,201,713	1,400,466	1,852,185	1,601,739
土 木 費	18,409,537	17,205,290	28,540,231	35,716,605	25,783,540	35,150,556	30,050,723	14,273,448
消 防 費	329,509	402,753	458,653	607,426	2,982,998	667,041	1,037,605	3,707,975
教 育 費	14,002,324	13,831,574	15,419,083	20,782,200	26,131,263	28,387,530	18,261,538	22,666,404
災害復旧費	0	0	0	0	0	0	0	0
公 債 費	1,633,068	1,562,062	1,486,012	1,301,235	1,155,364	1,170,461	1,300,289	1,837,833
諸支出金	5,500	5,500	5,550	425,206	7,573,039	7,000	7,000	7,000
財政調整納付金	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	78,411,929	78,663,495	103,054,750	120,571,128	135,488,094	127,675,033	119,084,521	117,864,103

(単位:千円)

平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
29,544,704	29,697,432	30,416,922	29,877,780	30,314,664	32,395,847	31,841,865	31,577,489	29,844,911	29,186,512
21,868,039	22,057,613	22,340,183	22,377,910	22,143,624	23,475,910	22,812,227	22,522,814	21,451,743	20,549,174
18,745,837	20,208,938	20,990,541	21,352,610	22,659,772	19,417,627	20,328,707	19,901,757	22,449,783	24,062,224
2,102,311	2,726,808	4,040,306	5,205,423	5,514,175	6,280,695	6,453,753	6,663,442	6,268,245	5,290,977
2,102,311	2,726,266	4,038,818	5,204,633	5,514,175	6,280,506	6,453,753	6,663,442	6,268,245	5,290,977
0	542	1,488	790	0	189	0	0	0	0
50,392,852	52,633,178	55,447,769	56,435,813	58,488,611	58,094,169	58,624,325	58,142,688	58,562,939	58,539,713
18,746,820	18,176,050	18,989,538	19,197,901	18,679,926	18,564,118	17,636,296	16,876,385	16,612,933	16,628,069
1,755,860	1,622,474	1,754,906	1,376,736	1,440,320	1,479,171	1,507,001	1,283,429	1,322,822	1,478,501
4,248,287	4,255,601	4,161,651	4,496,970	5,135,579	5,607,959	5,564,787	4,864,457	4,696,182	4,941,612
1,741,818	4,745,908	2,874,632	3,939,978	5,328,862	3,393,939	4,513,464	5,391,471	6,907,303	4,043,883
0	0	0	0	521,530	500,000	0	0	0	0
1,817,704	1,475,802	2,064,765	2,175,182	2,190,319	2,101,650	1,471,714	1,248,006	1,266,134	1,264,480
4,332,228	4,974,831	4,116,198	4,642,750	5,242,578	8,247,658	8,372,667	8,876,393	9,055,271	9,437,302
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
32,642,717	35,250,666	33,961,690	35,829,517	38,539,114	39,894,495	39,065,929	38,540,141	39,860,645	37,793,847
17,575,299	26,561,703	9,481,467	9,944,752	6,874,392	6,712,905	7,658,811	4,946,126	4,398,561	4,477,532
2,410,718	3,561,707	1,429,352	3,184,392	1,366,314	437,633	2,203,007	1,843,305	265,461	706,627
15,164,581	22,999,996	8,052,115	6,760,360	5,508,078	6,275,272	5,455,804	3,102,821	4,133,100	3,770,905
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17,575,299	26,561,703	9,481,467	9,944,752	6,874,392	6,712,905	7,658,811	4,946,126	4,398,561	4,477,532
100,610,868	114,445,547	98,890,926	102,210,082	103,902,117	104,701,569	105,349,065	101,628,955	102,822,145	100,811,092

(単位:千円)

平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
943,740	959,732	924,359	866,976	866,015	847,850	836,931	812,530	704,014	693,409
19,369,343	27,338,194	17,173,930	17,637,783	18,052,691	18,099,617	17,657,900	15,774,557	19,147,398	15,429,899
35,969,502	38,838,299	38,741,825	39,992,113	45,410,965	40,436,891	40,627,050	40,826,803	42,185,804	43,334,555
6,846,289	7,348,335	6,774,051	6,654,188	6,654,517	13,696,518	13,489,287	13,251,292	13,414,707	12,612,248
568,097	501,771	522,684	519,612	504,438	456,258	455,043	420,261	347,215	477,727
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1,581,487	1,507,041	1,544,375	1,747,980	1,797,867	1,713,727	1,653,090	1,639,463	1,696,883	1,707,186
11,839,048	12,032,918	11,954,866	12,550,646	10,433,550	8,891,418	10,670,125	8,604,550	6,901,985	7,300,557
1,831,778	2,051,336	775,203	567,220	491,666	499,065	437,110	379,537	340,789	376,817
19,520,911	21,082,330	16,424,134	16,444,070	14,170,684	13,769,687	13,060,485	13,251,063	11,810,630	13,584,911
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2,133,673	2,778,591	4,048,499	5,222,494	5,519,724	6,290,538	6,462,044	6,668,899	6,272,720	5,293,783
7,000	7,000	7,000	7,000	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0					
100,610,868	114,445,547	98,890,926	102,210,082	103,902,117	104,701,569	105,349,065	101,628,955	102,822,145	100,811,092

( 2 ) 平成 1 6 年度一般会計決算

歳 入

( 単位 : 円 )

款	予算現額	調 定 額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	予算現額と収入 済額との比較
特別区税	34,989,245,000	39,347,920,955	35,438,168,597	617,076,574	3,304,281,077	448,923,597
地方譲与税	1,121,697,000	1,140,426,000	1,140,426,000	0	0	18,729,000
利子割交付金	477,618,000	572,982,000	572,982,000	0	0	95,364,000
配当割交付金	119,804,000	149,795,000	149,795,000	0	0	29,991,000
株式等譲渡所得割交付金	74,665,000	156,856,000	156,856,000	0	0	82,191,000
地方消費税交付金	8,093,466,000	8,551,734,000	8,551,734,000	0	0	458,268,000
自動車取得税交付金	660,040,000	684,984,000	684,984,000	0	0	24,944,000
地方特例交付金	2,704,128,000	2,704,128,000	2,704,128,000	0	0	0
特別区交付金	21,885,000,000	22,345,925,000	22,345,925,000	0	0	460,925,000
交通安全対策特別交付金	68,892,000	67,165,000	67,165,000	0	0	1,727,000
分担金及び負担金	1,853,451,000	1,831,073,068	1,782,079,755	11,780,219	37,264,594	71,371,245
使用料及び手数料	4,590,436,000	4,355,362,959	4,274,992,089	100,000	80,270,870	315,443,911
国庫支出金	14,998,873,000	14,719,663,343	14,719,663,343	0	0	279,209,657
都支出金	5,675,718,000	5,041,687,562	5,041,687,562	0	0	634,030,438
財産収入	1,257,525,000	1,619,213,196	1,619,213,196	0	0	361,688,196
寄 附 金	71,476,000	67,033,478	67,033,478	0	0	4,442,522
繰 入 金	2,104,394,000	7,914,668	7,914,668	0	0	2,096,479,332
繰 越 金	2,951,238,000	2,951,238,255	2,951,238,255	0	0	255
諸 収 入	2,532,549,000	3,188,220,249	2,565,278,813	24,404,864	598,536,572	32,729,813
特別区債	8,248,700,000	8,248,700,000	8,248,700,000	0	0	0
合 計	114,478,915,000	117,752,022,733	113,089,964,756	653,361,657	4,020,353,113	1,388,950,244

## 歳 出

(単位：円)

款	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不 用 額	予算現額と支出 済額との比較
議 会 費	730,292,000	693,121,812	0	37,170,188	37,170,188
総 務 費	9,252,235,000	8,753,616,156	0	498,618,844	498,618,844
区 民 費	11,613,285,000	10,739,662,932	13,489,000	860,133,068	873,622,068
産業経済費	2,012,289,000	1,792,521,253	0	219,767,747	219,767,747
福 祉 費	33,371,940,000	32,198,654,756	0	1,173,285,244	1,173,285,244
健 康 費	12,102,800,000	11,264,832,679	21,168,000	816,799,321	837,967,321
環 境 費	7,635,044,000	7,325,865,797	0	309,178,203	309,178,203
土 木 費	8,531,385,000	7,965,697,214	41,807,000	523,880,786	565,687,786
教 育 費	14,217,600,000	12,864,759,629	527,846,000	824,994,371	1,352,840,371
公 債 費	12,546,878,000	12,546,846,577	0	31,423	31,423
諸支出金	2,338,160,000	2,338,158,000	0	2,000	2,000
予 備 費	127,007,000	-	-	127,007,000	127,007,000
合 計	114,478,915,000	108,483,736,805	604,310,000	5,390,868,195	5,995,178,195

## (3) 基金現在高の推移

	62年度	63年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	
財政調整基金	17,860	21,097	25,110	25,176	18,493	18,084	17,806	
減債基金								
建設基金	高齢者福祉施設建設基金	2,031	2,128	4,538	4,892	5,224	5,000	4,611
	都市整備基金	7,913	14,412	6,426	19,339	15,517	12,448	11,756
	区民健康村建設基金	2,200	3,552	4,623	5,891	2,829	2,776	2,041
	区民センター建設基金				5,285	5,647	2,493	2,521
	義務教育施設整備基金							
	公園建設島峰基金							
	社会資本等整備基金							
	小計	12,144	20,092	15,586	35,407	29,218	22,717	20,928
定住化基金				2,000	4,112	6,286	8,317	
少子化対策事業基金								
介護保険円滑導入基金								
介護給付準備基金								
協働推進基金								
小計		0	0	2,000	4,112	6,286	8,317	
利子運用基金	障害者福祉活動基金	108	131	154	182	192	215	352
	島田育英基金	51	62	72	82	93	106	118
	高齢者福祉活動基金	343	367	389	408	428	438	445
	地場産業振興小野基金		101	102	103	103	104	104
	外国人留学生学習奨励基金				77	182	183	183
	国際交流基金						200	
	みどりの基金							4
	小計	503	660	717	852	998	1,245	1,204
定額基金	用品調達基金	5	5	5	5	5	5	5
	公共料金支払基金							
	高額療養費資金貸付基金	25	25	25	25	25	25	25
	高額サービス費等資金貸付基金							
	小計	30	30	30	30	30	30	30
合計	30,537	41,879	41,443	63,466	52,851	48,361	48,285	

(単位:百万円)

6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
16,402	17,990	10,368	8,350	7,956	4,895	6,256	7,760	9,482	10,985	12,412
		2,620	3,805	5,155	4,965	4,170	6,284	6,688	7,698	7,705
1,207	1,033	754	706	535	854	1,149	1,238	1,532	0	0
10,706	9,319	8,249	7,135	5,416	3,741	2,379	2,379	1,863	0	0
706	33	9	9	9	9	9	284	785	0	0
						105	634	1,884	2,305	4,003
									23	23
									3,949	4,854
12,619	10,386	9,012	7,849	5,959	4,604	3,642	4,536	6,064	6,277	8,880
8,370	8,370	8,264	8,011	8,000	8,000	7,195	6,356	5,549	4,801	4,801
					179	0	0	0	0	0
					2,072	559	34	0	0	0
						222	1,005	1,099	1,078	747
										2
8,370	8,370	8,264	8,011	8,000	10,252	7,975	7,394	6,648	5,879	5,551
386	388	390	389	388	386	392	392	398	398	400
129	139	150	150	150	150	151	151	152	152	153
445	446	439	431	432	437	444	444	446	442	439
104	104	102	101	101	101	101	101	101	100	100
183	183	182	181	181	181	180	179	177	175	173
4	10	11	12	13	13	13	13	13	14	15
1,250	1,270	1,274	1,264	1,266	1,269	1,281	1,281	1,287	1,282	1,279
5	5	5	5	5	5	5	5	5	0	0
										300
25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
						20	20	20	5	5
30	30	30	30	30	30	50	50	50	30	330
38,671	38,046	31,568	29,309	28,366	26,014	23,374	27,305	30,220	32,151	36,157

### 3 施策の展開

#### (1) 区政の動き(主な施策・施設等)年表

年度	施策・制度	施設の開設等	
元	公衆浴場資金貸付 中学生海外派遣 第二分庁舎借り上げ	角筈区民センター 角筈図書館	公園改造 神田川上水 花園東・落合中央 公園新設 百二
2	福祉公社設立 ひとり親医療費助成 区民センター建設基金設置 定住化基金設置 本庁舎改修開始 図書館オンライン化開始	中強羅区民保養所改修 北山伏特別養護老人ホーム 北山伏高齢者在宅サービスセンター 牛込仲之小学校 区民ギャラリー	自転車駐車場 3所 公園改造 下落合、若葉、三栄町 公園新設 藤兵衛 高田馬場 左門
3	乳幼児医療費助成 高齢者・ひとり親・障害者世帯家賃助成 ゴミ減量運動開始	牛込・筈区民センター 高田馬場福祉作業所 細工町高齢者在宅サービスセンター 本塩町区民福祉会館 林芙美子記念館 百人町コホース 西新宿コホース	公園改造 白銀 柏木 あさひ児童 公園新設 下落合野鳥の森 百人町ふれあい
4	スポーツ振興財団設立 学校給食食器改善開始 リサイクル推進課を設置 リサイクル推進事業の拡充	若葉高齢者在宅サービスセンター 総合体育館2号館 教育センター 百人町まちづくり事業住宅	公園改造 北柏木 八幡 あかぎ児童 公園新設 小泉八雲記念
5	勤労者福祉サービスセンター設立 国際交流協会設立	消費生活センター 中落合高齢者在宅サービスセンター 西早稲田ふれあいプラザ 西早稲田授産場 落合中学校 リサイクル活動センター	公園改造 鶴巻南 戸塚 新宿中央 公園新設 若宮
6	社会福祉事業団設立 障害者就労福祉センター設立 乳幼児医療費対象者拡大 (3歳未就学)	大久保区民センター 柏木区民センター 榎町児童館 北新宿第一区民福祉会館 北新宿第一保育園 北新宿特別養護老人ホーム 北新宿高齢者在宅サービスセンター 大久保図書館	高田馬場コホース 早稲田南コホース 北新宿4丁目区民住宅 矢来町住宅 北新宿3丁目まちづくり 事業住宅 公園新設 下落合東
7	震災対策関連の施設整備 成人・産婦歯科健康診査 区成立50周年記念事業 新宿区開かれた区政推進計画策定 <財政非常事態宣言>	区民健康村 早雲山区民保養所 女神湖高原学園	公園改造 落合 南元町 合羽坂上公衆便所

年度	施策・制度	施設の開設等	
8	環境基本条例 ポイ捨て禁止条例 都市マスタープラン策定 新宿区基本構想(3月議決)	若松区民センター 落合第一区民センター あゆみの家増改築 落合第二中学校屋内運動場 戸山中学校屋内運動場 新宿養護学校	住吉町コホース 住吉町第一区民住宅 防災センター 落合保健相談所 自転車駐車場 2所 公園新設 台町すみれ
9	新基本計画策定 第二次住宅マスタープラン策定 24時間巡回型ホームヘルプサービス開始 特別緊急融資	四谷区民センター 百人町高齢者在宅サービスセンター 花園小学校 花園幼稚園 落合第五小学校屋内運動場等 四谷図書館 大久保スポーツプラザ	公園改造 花園 自転車駐車場 2所
10	介護保険制度の導入準備 内藤新宿開設300年記念事業 地域振興券交付事業 環境行動指針策定		
11	組織再編統合 10部 7部 外郭団体再編統合 10法人 7法人 子育て支援計画策定 事業転換・多角化資金融資 妊婦健康診査費助成事業 区政改革プラン策定	子ども家庭支援センター 柏木小学校屋内運動場等 柏木幼稚園 西新宿中学校	公園改造 まつ川
12	特別区制度改革(清掃事業等移管) 介護保険制度の発足 介護基盤の整備・介護予防対策 生涯学習財団設立 ISO14001取得	東戸山高齢者在宅サービスセンター 原町高齢者在宅サービスセンター フォルス西早稲田建設助成	
13	窓口事務の時間延長開始 障害者福祉計画策定 公園の里親制度開始	聖母ホーム特養建設助成 四谷中学校	自転車駐車場 1所 公園新設 中井東 公園復旧 荒木
14	後期基本計画策定 第三次実施計画策定 行財政改革計画策定 住基ネット一次稼働(住民票コード通知等) <財政非常事態宣言に終止符>	榎町区民センター 産業会館(BIZ新宿)	自転車駐車場 1所 公園改造 原町 公園復旧 新宿中央
15	支援費制度開始 地域福祉計画策定 環境基本計画策定 社会資本等整備基金設置	富久町保育園(公設民営) 新宿生活実習所(本格施設) 元気館 第二分庁舎	
16	次世代育成支援計画策定 協働推進基金設置 公共料金支払基金設置 財務会計・文書管理等システム運用開始	原町みゆき保育園建設助成 環境学習情報センター	

(2) 施設の充実状況

	昭和62年度末	平成14年度末	平成15年度末	平成16年度末
特別養護老人ホーム	***** ***** *****	2所 定員140人 273百万円	2所 定員140人 192百万円	2所 定員140人 118百万円
特別養護老人ホームのベッド確保	4所 81床	26所 603床	26所 603床	26所 603床
高齢者在宅サービスセンター	***** *****	8所 447百万円	8所 313百万円	8所 210百万円
区民センター	***** *****	8所 971百万円	8所 911百万円	8所 884百万円
区民健康村	***** ***** *****	1所 利用定員154人 371百万円	1所 利用定員154人 375百万円	1所 利用定員154人 377百万円
産業会館	***** *****	1所 20百万円	1所 74百万円	1所 79百万円
消費生活センター	***** *****	1所 28百万円	1所 29百万円	1所 31百万円
リサイクル活動センター	***** *****	1所 47百万円	1所 47百万円	1所 50百万円
区立住宅	50戸	*****	*****	*****
借上型	20戸	*****	*****	*****
区営住宅	*****	1,049戸	1,048戸	1,045戸
区民住宅	*****	384戸	382戸	381戸
事業住宅	*****	80戸	78戸	78戸
	20百万円	1,435百万円	1,406百万円	1,413百万円
公園及び児童遊園等	75所 295,300㎡	91所 329,916㎡	91所 330,156㎡	91所 330,156㎡
児童遊園	69所 33,445㎡	61所 28,705㎡	61所 28,705㎡	61所 28,554㎡
ポケットパーク	*****	16所 2,134㎡	16所 2,134㎡	16所 2,134㎡
	359百万円	534百万円	525百万円	558百万円
自転車駐車場等	*****	14所 3,036台	13所 3,031台	13所 3,027台
自転車等整理区画	*****	19区画 1,405台	19区画 3,055台	52区画 3,620台
保管場所	*****	3所 2,900台	3所 2,900台	3所 2,900台
	*****	181百万円	184百万円	259百万円
防火用貯水槽(40t以上)	57基	94基	94基	94基
防災センター	***** *****	1所 25百万円	1所 26百万円	1所 25百万円

金額については、各施設の管理運営経費の決算額を掲載してあります。

## 4 用語の解説



### 【あ行】

#### 一般財源

財源の用途が特定されず、どのような経費にも使用することができるもので、地方税、地方譲与税、特別区交付金などのことをいいます。

### 【か行】

#### 基金

特定の目的のために財産を維持し、資金を積み立て又は定額の資金を運用するために設けられる資金又は財産で、条例により設置することができ、例えば高齢者福祉活動基金のように基金の運用による収入を各種の高齢者福祉事業に充てるなど、設置目的に基づき活用を図っています。

#### 義務的経費

性質別経費のうち義務的・非弾力的性格の強い経費で、人件費、扶助費及び公債費のことを指します。人件費は経常的に支出を予定せざるを得ず、扶助費は生活保護をはじめ法令の規定によって支出が義務づけられており、また、公債費は負債の償還に要する経費であって、いずれも任意に節減できない経費です。

義務的経費の増加傾向は財政構造の硬直化を招く恐れがあるので、その内容、動向に注意しなければなりません。

#### 経常収支比率

人件費、扶助費、公債費等の義務的性格の経常経費に、地方税、地方譲与税、特別区交付金等を中心とする経常的な収入である一般財源がどの程度充当されているかを見ることにより、地方自治体の財政構造の弾力性を判断するための指標として用いられているものです。これが大きくなるほど、新たな行政需要に対応できる余地が少なくなり、一般的には、70～80%が適正とされています。

#### 公債費

区債の元金の償還及び利子の支払いに要する経費のことをいいます。区債は世代間の負担の公平化という観点からは、必要に応じて活用すべきですが、後年度の財政負担となってしまいます。このため、公債費の一般財源に占める割合を算出し、その限度を計数的に見ることとしており、一定割合を超えると、区債の発行が制限されます。

また、公債費は、人件費及び扶助費とともに、義務的経費と呼ばれ、その増高は財政硬直化の要因となるため、留意が必要です。

## 公債費比率、起債制限比率

いずれも、公債費（区債の元利償還金）の負担の程度を、「公債費に充当される一般財源」の標準財政規模に占める割合で示すもので、通常、財政の健全性がおびやかされないためには、公債費比率が10%を超えないことが望ましいとされています。また、起債制限比率については、これが20%以上になると地方債の発行に制限を受けることになります。

## 【さ行】

### 財政調整基金

年度間の財源の不均衡を調整するための基金で、長期的視野に立った計画的な財政運営を行うために、財源に余裕のある年度に積立てを行い、財源不足が生じる年度に活用するためのものです。また、各年度において決算上剰余金を生じたときは、その2分の1以上の額を積み立てることとなっています。

### 財政力指数

地方交付税法の規定により算定した基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均値をいい、地方自治体の財政力を示す指数として用いられています。

### 実質収支

実質収支は、一会計年度の決算において、収支が赤字であったか黒字となっているかをみるための指標です。当該年度の歳入決算額から歳出決算額を差引き、さらに翌年度に繰り越すべき財源を控除して算出します。

これは、本来当該年度に属すべき支出及び収入が、当該年度に実際に執行されたものとみなすことにより、実質的な収支の状況を見ようとするものです。

### 実質収支比率

標準財政規模に対する実質収支額の割合で示され、団体の財政規模やその年度の景況などによって一概には言えませんが、3%～5%程度が望ましいと考えられています。

### 実質単年度収支

単年度収支には実質的な黒字要素である財政調整基金への積立や地方債繰上償還と赤字要素である財政調整基金の取崩しが含まれています。これら要素を控除した額を実質単年度収支とといいます。

## 【た行】

### 単年度収支

実質収支には、当該年度以前の財政運営の結果として累積された赤字や黒字の要素が含まれています。そこで、当該年度の決算による実質収支から前年度の実質収支を差引き、当該年度一年だけの収支を表したものを単年度収支とといいます。

## 投資的経費

経費支出の効果が、施設等のストックとして後年度に及ぶ性質の経費で、道路・橋りょうなどの公共土木施設、文教施設、公営住宅等の建設事業で、いわゆる社会資本を形成する経費のことです。

## 特定財源

財源の用途が特定されているものをいいます。特定財源に分類されるものとしては、国庫支出金、都支出金、地方債、分担金及び負担金、使用料及び手数料、寄付金のうち用途が指定されているものなどです。

## 【は行】

### 標準財政規模

普通交付税の算定の仕組みを通じて表される、その団体の標準的な一般財源の規模をいいます。

### 普通会計

各地方自治体の財政状況の把握、地方自治体間の財政比較等のために用いられる統計上、観念上の会計をいいます。地方自治体における会計は、一般会計と特定の場合に設置される特別会計とによって構成されていますが、個々の地方自治体ごとに各会計の範囲が異なっていることなどから、財政比較等においては、この普通会計を用いています。具体的には、一般会計と特別会計（公営企業会計など特定の特別会計を除く。）を合算し、会計間の重複等を控除したものです。

